

演劇レーベル Bö-tanz 第 39 回公演台本

UNBREAKABLE

アンブレイカブル

—世界は魔法で動いてるって知ってた?—

【元セクハラ准教授・秦博の章】

作・はなださとし

本作品はあからさまにフィクションです。
この物語に登場する人物・団体……ばかりではなく、建築物や科学技術、
そして災害を含むいかなる自然現象その他もろもろ
すべてが空想の産物であり、
実在のものとは一切関係ありません

登場人物

〈三人の天使達〉

グリゴリを抹殺するために地上に降りた——いや、墮とされた——天使だが、見た目はただのオヤジだ。

壬生匡子がボス弁を務める法律事務所で目下居候中。果たして役に立っているのだろうか？

秦 博(はた・ひろし):元セクハラ准教授

天使。グリゴリをも殺戮可能なくアマダスの弾丸)の創成する力を持つ。東日本技術科学大学(技科大)理学部地学科の元准教授。専門は地質学で、活断層の研究者だった。あの〈大洪水〉の直前に、セクハラ騒動で大学を依願退職。

棚橋 晃(たなはし・あきら):元悪徳警官(警部補)

天使。以前は警察官(警部補)で留置場の看守をしていた。しかし、留置されたヤクザ(友誠会石間組)に便宜を図った不祥事で処分を受けて退職し、現在に至る。天使なのだが、自らがどの様な特殊能力(魔法)を使えるのかすっかり忘れ去ってしまったようだ。

樋村 克爾(ひむら・かつじ):元ヤクザ

天使。極めて解像度は悪いものの千里眼(天空の目)を持つ。友誠会石間組の元ヤクザだが、お抱えのヒットマン(殺し屋)といったポジションであったという。あの〈大洪水〉を期に足を洗うが、何故ヤクザを辞めたのか、その理由は誰も知らない。

〈壬生法律事務所の職員達〉

壬生 匡子(みぶ・きょうこ):悪徳弁護士(壬生法律事務所の所長:ボス弁)

自称「悪徳弁護士」。着手金横領に近い不当行為、利益相反や守秘義務違反など倫理違反を犯しまくりだが、何故か弁護士会から懲戒処分を受けたことは一度もない。なお、こいつも天使。墮天使〈グリゴリ〉を識別する能力〈イントロスコピー〉を持っている。

但峰 大介(ただみね・だいすけ):壬生の部下の勤務弁護士(イソ弁)

生真面目でイマイチ融通が利かない若き弁護士。上司の壬生匡子に尊敬の念ばかりではなく、愛情も抱いているようだ。

大念 楓(だいにん・かえで):壬生の秘書兼助手

法律を知っているようだが、残念ながら弁護士ではない。壬生弁護士事務所の単なる秘書みたいなもの(アルバイト)だ。居候の三人のオヤジ達に愛情を感じることはないが、哀れみに似た感情を抱くことはあるという。

〈友誠会石間組の方々〉

滝野 雅哉(たきの・まさや):友誠会石間組・若頭 石間興産・総務部長

若頭として、組を仕切っている。極めて知的なインテリヤクザであるが、元組員の樋村に対しては敵意を剥き出しにする。ふたりの間には、何かあったんだろうね、きっと。

石間 龍雄(いしま・たつお):友誠会石間組・組長 石間興産・代表取締役

子供がいないためだろうか、大の犬好きである。一見、温厚そうに見えるが、時折垣間見せる〈ヤクザの地金〉が怖すぎる。さすが石間組の組長である。

〈グリゴリ:原型(アーキタイプ)〉

タミエ／タミエル

天文学や錬金術の知識を人々に伝えたと言われるグリゴリ。〈ネフィリム〉の秘術を人類が知り得ることになったのも、こいつが原因なのかも知れない。見た目はたおやかな女性だが、性格は極めてマニッシュ。

アルマ(正しくは、アルマロス)

ガーリィで小悪魔風の女の子だが、グリゴリの先導者のひとりである。すべての魔術を無力化する能力〈護符(タリスマン)〉を持つ。口寂しいのか、お子ちゃまなのか、ロリポップキャンディを常に咥えている。お喋りで口が軽く、秘密であるはずの〈神の名〉を人々に漏らしてしまったとも言われている。

〈秦と付き合ってるっぽい〉

早坂朋美:現大学助教

秦が准教授時代に指導教員として直接の指導を行っていた学生で、現在東日本技術科学大学理学部地学科の助教を務めている地質学の研究者。秦の影響か、〈ネフィリム〉反対の姿勢を貫いており、各地で催される脱〈ネフィリム〉シンポジウムに講演者として参加し続けている。

旧約聖書偽典〈エノク書〉によれば、
かの〈大洪水〉は天界に背いて地上に降臨した 200 人の墮天使を殲滅する目的で
行われたのだという。

これら裏切り者の墮天使の一団はグリゴリと呼ばれていた。
グリゴリ達は人間の娘を娶って子をなしただけでなく、
禁断の知識である〈魔術〉までも地上の人々に伝えた。
これら〈魔術〉の恩恵により、人々は豊かな生活を手にすることが出来たが、
同時に地上には富を奪い合う争いと
その結果としての貧困や饑餓が溢れることとなった。

地上の平和を取り戻させるべく、
天界は幾度となく天使をグリゴリ達の暗殺者として地上に送り込んだのだが、
その努力はなかなか報われることはなかった。

更に大きな問題とされていたのが、
グリゴリ達が人間達に教えた秘術の中に〈ネフィリム〉と呼ばれる
エネルギー創成技術が含まれていたことだった。
〈ネフィリム〉は単なる石（＝ウラヌス）を莫大なエネルギーへと変換する
極めて有益な〈魔術〉である反面、
人間達が取り扱うには危険すぎるものと危惧されていたのだ。

〈ネフィリム〉は人類の手に負えるものではない
——それが天界の下した最終判断だった。

そして、
〈ネフィリム〉を用いて巨大なエネルギー創成装置を作り上げた
グリゴリ達と人類に向け、
かの〈大洪水〉は引き起こされたのだ。
グリゴリを暗殺するために天界から送り込まれた〈天使達〉には
一切警告を発することなく……。

0. あれ？ いつもの前説のおっさんは？ 今回は心の余裕がないみたいだ。

池袋。シアターグリーン Base Theater。

開演前の舞台上には人っ子一人いない。

いつもだったら、あのおっさんが前説をしているはずなんだけど……。結構強引で不躰なあのおっさんが、「タメ口をきく」のを良識のある観客に咎められたことのあるあのおっさんが、あまりのウザさに前説だけでお客を不快にさせたのみならず帰らせてしまったこともあるあのおっさんが……。

——猛烈に反省しての自粛か、それとも劇団側の配慮？

まあ、あの暑苦しい前説は如何なものかと思ってもいたので、この対応は適切なのだろう……とはいうものの、前説の人が舞台上に現れることなく、代わりにスクリーンに「上演時間」や「トイレの位置」、「携帯電話のスイッチは……」、「この物語に登場する人物・団体……すべてが空想の産物であり、実在のものとは一切関係ありません」などの注意事項が間欠的に投影されるだけという洗練され過ぎた手法には、若干の寂しさを感じないわけでもない……ん？ 私はあの前説を求めていたのか？ そうなのか？ 自分自身に問い掛けてみるが、明確な答えは返ってこない。

斯く言う——心の闇は、劇場の闇より暗い——のだ。

ふと手元に視線を向けると、フルカラーパンフレットを握っていることに気付く。この劇団は、何が楽しいのか、豪華な当日パンフを作る。金も手間もかかっているだろうに、きつと意地になっているのだろう。その表紙を何気に開いてみる、と……。

——ウソでしょ……。

理由が分かったような気がした。あのおっさんが前説に立っていない本当の理由。

今回は心の余裕がないんだ、あいつ……。

客席に垂れ流されていた音楽のヴォリュームが突如大きくなる。ともに、客電がゆっくりと暗くなっていく。

完全暗転。自分の鼻先すら見えない。

斯くして、演劇レーベル Bö-tanz の新作『Unbreakable』が開演する……。

大音響で轟いていた M0(エムゼロ)が突如、途切れる。

暗闇の中から響いてくる男の声。

声 ……マジで？ 俺が？ なんで、地上に墜ちて行かなきゃならないわけ？ なんで？

ゆっくりと舞台が明るくなっていく。

ダークスーツ姿のおっさんが舞台の上に立ち、ひとりで喋っている。

なお、この男の名前は秦博(はた・ひろし)というらしい。どうでもいいことのようにだが、憶えておいても損はない——まあ、憶えたからといって、得にもならないが。

秦 グリゴリを、あの地上に落ちた反逆者達を？ お言葉を返すようでなんですけど、ヤツらを殲滅するには、もっと力のある天使が適当だと思いませんか？ 俺なんかじゃなく。……ダメダメ、俺なんか、全然役に立ちませんよ。てなわけで、ごきげんよう、さようなら……。

と、秦は踵を返し帰ろうとするが、張り付いたかのように動きを止める。

秦 あー、こらこら、翼引っ張るな。痛、痛いって。(正面に向き直り)翼を引っ張るな、と言っているのが聞こえないのか！(と、怒るが、我に返り)あつ、すみません。俺としたことが、つい声を荒げてしまって…… 分かりました、分かりました。話は聞きます。ちゃんと聞きます。……んっ？ なんですか？ ……魔法？ 魔法ですか。グリゴリ達に対抗するために、魔法を使得るようにしてくれる、と？ どんな魔法を授けてくれると？ ……なんでも？ マジで？ で、その魔法で、思うことはほぼ叶う、と？ ちょい待ち！ その「ほぼ」って言う部分に引っ掛かりを覚えられないわけではないですが…… まあ、そりゃ分かりますよ。俺も大人の天使ですから……。やってはいけない魔法があるってことは。たとえば、墮とされた直後に「天界に、雲の上に戻りたい」と念じたところで〈その願い〉は聞き入れられることはない。だって本末転倒ですよ。魔法は目的のために使われるべきだし……えっ？ 目的に沿っているか否かとか、その部分はあまり厳格じゃない？ つか、いい加減だなあ、お前……って、ごめん、ごめん。タメ口いきちゃった。分かった、分かった。怒っちゃ、嫌。穏便に行きましょうよ。穏便に……。話をちゃんと聞くから、はいはい。……反逆者を殲滅するために、概ねなんでもできる魔法を 108 回使えるようにしてやるから……って、ちょっと待って、108 回ってなんに基づく数字？ ……はっ？ 煩悩の数ってお前。それ、ジャンル違ってない？ ジャンルつか、宗教違うでしょ、それ？ 俺、天使なんだけど…… いいの、煩悩の数で？ マジで。それはそれで OK なんだ。ふーん。煩悩の数だけ魔法を使って、功德を積んだら……って、「功德」っていうチームにも若干引っ掛かりがあるけど、それも天使的に OK？ はあ、OK なんだ。……で、108 回魔法を使って功德を積んだら、天界に戻って来られる。おそろく…… ちょい待ち。お前、今、〈おそろく〉って宣った？ 〈おそろく〉って、何？ 曖昧すぎじゃん。……えっ、目的の達成度？ 魔法を何回使ったかではなく、グリゴリを何人葬ったかってこと？ じゃあ、108 回関係ないじゃん。つか、分かった。葬ったグリゴリの数、それが評価軸なわけね。で、一人あたりのノルマは？ ……ええええっ！ 数値目標はない、って……なにそれ。お前、その口でなに言っているのか分かってるの？ あのね、目標も曖昧で、頑張っても戻って来られるかも分からない……それじゃ、誰も行くわけないだろ。ああ、ダメダメ。無理無理無理無理。絶対無理っぽい。っていうか、無理。じゃ！

と、踵を返し、帰ろうとするが、再び翼を引っ張られる。

秦 痛、痛いって。羽を引っ張るな(正面を向き)止めろ。マジで痛いだろ！(と、真剣な面持ちになり)……本気か？ 本気で俺の羽をもぎ取る気か？ ……これは決定事項、っ

て？ 何かの罰か？ なあ、俺が何か罪を犯したか？ 痛いって。止めろよ。俺の翼から手を放せ！ その薄汚い手を放せ！ 分かった、なんでもする。毎日、お前の肩を揉んで上げよう。庭掃除だってする。切れた電球の交換だって、お手の物だ。君のその頭の上で光っている輪っか、それもこの際 LED に換えよう。エコだし……。ねっ、ねっ、その代わり、地上に墜とすのだけは許してくれ……。翼をもぎ取るのだけは許してくれ……。痛いから……。なあ、痛えよ……。痛すぎるよ……。頼む……

鳴き声を上げながら、膝を折ってうずくまる秦。その背後に女が立っている。
タイトなダークスーツに身を包んだ女だ。知的そうなクールな表情の向こうに、ずる賢さが透けて見えそう。この女の名前は壬生匡子(みぶ・きょうこ)。スーツの襟元に小さな金色のバッジが見える。ひまわりの花を模ったような……。んっ？ 弁護士記章か？

壬生 地上に降りてきた天使——つまり、墮天使には異なる二つの種類がある。そのひとつは自らの自由意思で天界を捨て地上に下った天使。グリゴリと呼ばれる 200 人の墮天使達。グリゴリどもは人間の娘を娶って子をなした。

舞台後方に男が現れる。
壬生と同じく、ダークスーツ姿ではあるが、弁護士を生業としている者には見えない。逆立ちしても、見えない。目を瞑ったら……。何も見えなくなるので、気をつけよう。
あっ、そうそう。言い忘れるところだった。この男の名前は棚橋晃(たなはし・あきら)だ。

棚橋 それだけじゃなく、天界の知識である〈魔術〉までも地上の人間達に教えちゃったんだ。天文学や錬金術、物理学。つまり、暦の作り方や鉄の剣の精錬術、宇宙に存在する物質の本質……。明かされた〈天界の永遠の秘密〉——天界魔術——の多くは、地上において後に科学技術と呼ばれることになる……。

他方にもう一人の男が立っている。
同じくダークスーツ姿だが、鼻真目に見ても堅気の方とは思えない。頭に「や」の付くご職業に従事されておられるっぽいけど、どうなのだろう？ 身体の周りにオーラのように〈極道感〉とともにクールなく知性)をまわりつかせているこの方は、樋村克爾(ひむら・かつじ)という。

樋村 これら〈天界魔術〉の恩恵により、人々は豊かな生活を手にすることが出来た。だが、同時に富を奪い合う争いが至る所で巻き起こり、その結果として貧困や饑餓が地に溢れることとなった。地上の平和を取り戻させるべく、天界はグリゴリ達を抹殺する目的で幾度となく天使を地上に送り込んだ……。

壬生 その暗殺者達がもうひと種類の墮天使……。

秦が立ち上がっている。

秦 それが、俺たちだ。
樋村 翼をもがれて、地上に突き落とされた墮天使。
秦 有無を言わず、たたき落とされた。
棚橋 やる気も忠誠心もあったもんじゃない。だが……俺たちは頑張ったぜ。
樋村 その行動の惨たらしさに目を背けて。
壬生 その目的の歪さに悩みながらも。
秦 俺たちはグリゴリどもを狩り続けた。ひたすらに……。

台詞の途中から音響が響き始める。

Stronger Than You Think/Fireflight

照明が緩やかに変化する。スクリーン上に投影される〈セフィロトの樹〉。
と、舞台後方から突如一人の女が駆け込んできて、舞台の前面でうずくまる。

樋村 秦、聞こえるか？ 追いつめた女がそっちへ向かった！ 逃がすな！
秦 幸運なことに彼女に出会うことが出来た。スプの冷めない距離と言ったところだ。

秦はいつの間にか、拳銃を手にして、その銃口を女の背中に向けている。
自分の背中に照準が合っていることに気付き、女がゆっくりと立ち上がる。
派手なドレスをきた女だ。
微動だにせず正面を見つめる女の名前はタミエル——だが、その名を知る者は彼女をおいてこの場にはいない。

タミエル 墮天使か？
秦 いや、天使だ。
タミエル （それを聞いて失笑する）
秦 アダマスの弾丸だ。これがお前の脳天にめり込めば……。
タミエル アマダス——クロノスが自らの父ウラヌスの男根を切り取った魔法の金属。その魔力で墮天使でも殺すことが出来る……か？
秦 ご名答。完璧な回答だ。（秦に近づいてきた壬生に向かって）匡子、見えるか？

壬生、額に手を当て集中する。
キーンという、神経を興奮させる嫌な音。スクリーン上で〈セフィロトの樹〉が青白く瞬く。

壬生 グリゴリだね。
秦 雑種（ハイブリッド）か？
壬生 いやいや、原型（アーキタイプ）。生粋のグリゴリさんだ。
タミエル 見えるのか？ お前には……。
壬生 まあね。血の薄い雑種（ハイブリッド）は無理だけど、ある程度の濃さがあれば、その影が見える。
タミエル 影？

壬生 ダーク・ウイング——薄汚れた翼が。特にはっきりと見えるよ。あんたみたいな原型(アーキタイプ)の場合は……。

タミエル (鼻で笑い) 幻視能力——イントロスコピ——か？

壬生 そう、それ。

棚橋 (既に拳銃を手にして、タミエルのそばまで近づいている) 災いなるかな、裏切りを行いたる者。お前達は滅び、救いはない。汝の名前を告げよ。

タミエル 名前？ 嫌だね。

棚橋 嫌だあ？ 手前！ 強く出られる状況か？ よく考えてみろ。

タミエル どうしても聞きたいのなら、お前達が先に名乗るべきだろう？ そうか……憶えていないわけだ。(壬生に) なあ、女。どうして私がグリゴリだと分かる？ あんたと私の違いはどこにある？ もともと同胞である私たちに見た目の違いがあるとは、到底思えない。

壬生 羽根の色だ。

タミエル (鼻で笑い) 曖昧だ。曖昧すぎる。私は大天使ミカエルの命により、グリゴリどもを抹殺するために地上に墮とされた〈殺戮天使〉だ。つまり、お前達の側にいる……。

樋村 嘘だ。

タミエル 嘘ではない。お前達が墜ちてくるより、遙か前に私は地上に……。

秦 自らの意志で天界を捨てたグリゴリとは違い、俺たちは自らの名を知らない。天使であった頃の記憶すら曖昧だ。お前に問う。何故、俺たちはその記憶を失った？

タミエル ……。

秦 まあ、その理由は？

タミエル 理由？ そんなこと、知るか。

秦 災いなるかな、偽りの言葉を吐く者。汝は滅び、救いはない。いいか、俺たち天使はその理由を知っている。痛いほどに知っている。言葉通りの意味で、だ。お前がもし、グリゴリではなく俺たちの側に立つ者なら、知っているはずだ。

タミエル ……。

樋村 そして、もうひとつ。俺たちは自らを〈殺戮天使〉と称することは決していない。

タミエル (身体を折って笑いだす)

樋村 災いなるかな、偽りの言葉を吐く者。汝の名前を告げよ。

タミエル (まだ笑っている)

棚橋 (秦に) 早く撃っちまおうぜ！

タミエル まあ、〈殺戮天使〉。

棚橋 殺戮天使と呼ぶな！

タミエル 何故だ？ お前らのやっていることは、殺戮に他ならないだろう。

樋村 (唐突に) 秦。

樋村の言葉に呼応したかのように、スクリーン上の〈セフィロトの樹〉が青白くスパークを発する。

秦 どうした？

樋村 誰かが近づいてくる。

もう一人の女が他方に現れた。

ゴシック風の衣裳に身を固めた若い女だ。その女の名前はアルマ(正しくはアルマロス)——だが、その名を知る他者はタミエル以外この場にはいない。

アルマはふてぶてしくロリポップキャンディを咥えている。

アルマ 分かるんだ。あっ、それって千里眼〈天空の目〉の能力？

棚橋 (アルマに銃口を向け、叫ぶ) 誰だ！

秦 (突然の出現に驚きつつ) 匡子！ グリゴリか？

壬生、額に手を添える。キーンという SE。スクリーンの〈セフィロトの樹〉が一瞬碧く閃光を発するが、その輝きは急速に失われ、消し炭のように黒ずむ。

壬生 ……。

秦 どうした？

壬生 見えない……。 (明らかに動揺している)

棚橋 見えない……って、どういうことだ？ グリゴリじゃないのか？ (銃口が微妙に逸れる)

壬生 違う。見えないの。何かに遮断されたみたいで、イントロスコピーが効かない……。

樋村 魔法か？

アルマ (ロリポップキャンディで秦を指し) ご明察。私にはどんな魔法も効かないの。護符(タリスマン)の魔術よ。

棚橋 たりすまん？

壬生 護符のことよ。タリスマン、チャーム、呼び方は色々ある。

アルマ チャームって呼び名、素敵！ タリスマンよりずっと可愛い。

棚橋 護符って、なんだ？

壬生 すべての魔法を無力化する力。

樋村 護符(タリスマン)の魔術。その力を持つグリゴリは……。

壬生 7人の先導者のひとり……アルマロス。

棚橋 アルマロス？

アルマ (にっこり笑って) あらら、私って結構人気者？ でも、アルマロスってちょっと野暮ったい、って言うか、響きがダサ過ぎ。みんなはね、私のことをアルマって呼ぶわ。

タミエル お喋りが過ぎるぞ。

アルマ 私のおしゃべりは今に始まったことではないでしょ。タミエル。

タミエル 私の名を不用意に呼ぶな！ ヤツらに……。

アルマ いいじゃん。私ばかり、名前がばれちゃうのって、フェアじゃないわ。

タミエル お前は口が軽すぎるのだ。最も秘密とされる彼(か)の方の名まで、人々に漏らし……。

アルマ 〈神の名〉を口にしちゃいけないんだっけ？ 私、口が軽いとかそんなんじゃないの。秘密ってものが大嫌いなだけ。(早口でまくし立てる) どうして秘密にしなきゃならないの？ 秘密にしなきゃいけないものなんかあるの？ 秘密にするなんて、性格キモ過ぎるよ……。

棚橋 (銃口をアルマに向け) 災いなるかな、秘密を口外する愚かなアルマロス。お前の墓は決して掘られることはない。

棚橋、引き金を引くが、アマダスの銃弾は発射されない。なんと引き金を引いても空撃ちとなってしまうのだった。

地鳴りのような SE。スクリーン上で〈セフィロトの樹〉が真っ赤に燃え上がっている。

棚橋 あれ？ おかしい……。

アルマ (棚橋の銃口に額をくっつけて、微笑む) おかしくない。これがチャーム。私のチャーム・ポイント？ アマダスの魔法は封印されちゃったの。

秦 アマダスの魔力が効かない？

アルマ そういうこと。どうする、殺戮天使？

樋村 なら、物理的に破壊するまでだ。

アルマ 物理的に？

樋村 その細いのだ笛を歯で噛みちぎり、両腕を引きちぎるまでだ。

アルマ 怖っ、それってホラー？ ってゆーか、スプラッタじゃん。

タミエル (失笑して) さすがだね。やり方が凄惨すぎる。げにおぞましきは、殺戮天使。

アルマ ほんとと最凶最悪。束になってタミエルをいたぶるし……。あっ、そうそう。知ってる、タミエル？ 殺戮天使はグリゴリばかりではなく、人間も殺すんですってね……。

タミエル ああ、年端もいかない子供まで容赦なく血祭りにする。

棚橋 人間ではない。雑種(ハイブリッド)だ。お前らの血が混じっている限り、同類だ。

アルマ 私、見たことがあるわ。彼が人間を殺すのを(樋村を指差す)。千里眼の魔法〈天の目〉を持つあなたがグリゴリではなく人間を殺すのを……。

樋村 ……(言葉を失い、向けていた銃口が下がる)

アルマ あなたの能力〈天空の目〉を通じて、あなたが行ってきた残虐行為の数々を見せてあげるわ。

棚橋 樋村。ヤツらの戯れ言に乗せられるな！

秦 〈天空の目〉を閉じろ！

アルマ ほんと、血も涙もないとは、あなたのことね。

樋村ががたがたと震え出し、その膝から力が抜け始める。

地鳴りのような SE が大きくなる。赤く炎を上げて燃え上がる〈セフィロトの樹〉。

秦 匡子！ 樋村を！

壬生 (樋村に駆け寄り、抱き起こす) 克爾。いい、〈天空の目〉を閉じるの。意識を支配される。

タミエル 私たちとは違って、彼らは人を愛することが出来ない。

アルマ だから、平気で人も殺せるのね。

壬生 愛していない訳じゃない。でも、お前達と同じ意味で人を愛したら、お前達と同類になる。天界を裏切り、地に降りたち、人間と交わったお前達が許されることはない。決して…
…。

タミエル 裏切った訳ではない。私たちは憧れたのだ。地上の人間達に。その自由意思に……。
アルマ 天界なんてなんの面白みもないんだもん。今日は昨日と同じだし、明日は今日と同じだし…… それに比べ、人間の世界って素敵。明日のことは明日が来るまで分からない。わくわくするでしょ、そんな生き方。
タミエル 何故だ？ 人間に憧れ、人間を愛し、そして人間になろうとする私たちを、どうして天は許さない？
秦 棚橋！

と、端が叫ぶが早いか、棚橋がアルマに飛びかかる。アルマは身を翻してそれをかわし、舞台奥台上にふわりと飛び乗る。燃え上がっていた〈セフィロトの樹〉が黒ずむ。
アルマに逃げられた棚橋がたたらを踏んで、バランスを崩したその刹那――。
響き渡る銃声。
タミエルが顔を押さえてうずくまる。

秦 面の皮一枚かわされた……？
アルマ あらら？ アマダスの魔法はすべて封印……。
秦 アマダスの弾頭ではなく、普通の弾だ。護符(タリスマン)の魔術は普通の鉄砲は無力化できない。違うか？
タミエル 普通の弾丸で私を殺せるとでも思ってるのか？
秦 普通の弾丸でも、お前を傷付けることだけは出来る。肉体を修復する暇を与えずに、108個の弾丸をお前の脳髓に続けざまに打ち込めば、如何にグリグリといえど……。
アルマ 最悪だね……。
秦 災いなるかな。天の教えに背く者。汝の名はタミエル。

秦、銃弾を立て続けにタミエルに向かって放つ。だが――。

アルマ 残念でした。全弾ハズレ。タミエルには飛んでくる弾丸が見えるんだ。至近距離から撃ったって、簡単にかわせちゃう！

赤く燃え上がる〈セフィロトの樹〉。
タミエルがゆっくりと立ち上がる。スクリーンを背に立っているアルマの身体の両翼に突如、天使の翼が現れる(スクリーン映像)。

アルマ 行くよ、タミエル。(秦に)またきっと会えるよ。今度会う時までにもっと狡い不意打ちを考えといてね(と、微笑む)

アルマが両手を前に突き出す。
と、映像の翼がバサリと一閃し、〈セフィロトの樹〉が爆散する。
舞台が光で一瞬満たされ、そして、暗転する。
暗転の中、壬生の声。

「人間に憧れ、人間を愛し、そして人間になろうとする私たちを、どうして天は許さない…
…。グリゴリの問いに答えられる者はいない」
明かりがつく。タミエルとアルマは蒸発した朝露のように消えている。

棚橋 答えられるわけがない。
樋村 だって、俺たちは何も聞かされてはいない。
秦 「殺戮」天使……か。
棚橋 言い得て妙だな。「殺戮」天使——そう呼ばれて、俺たちはかなり凹んでた。
秦 自らに問うてみる。何故グリゴリを殺さなければならないのか？
壬生 ヤツらは天界の秘密を人々に伝えたから、それが断罪された。
棚橋 確かにそうだ。だが……。
樋村 グリゴリを殲滅したところで、漏れ伝わった秘密まで綺麗さっぱりなくなる訳じゃない。
棚橋 その通り。
秦 なあ、天界が危惧したのは、グリゴリの存在そのものと言うより、漏洩された天界の秘密の中に、人類に伝えるべきではなかった禁断の〈秘術〉が含まれていたことじゃないか？

遠くから響く陰鬱な音。巨人がゆっくりと大地を踏みしめて歩いているかのような……。

樋村 禁断の秘術？
棚橋 ……〈ネフィリム〉か？
秦 そうだ。
壬生 〈ネフィリム〉と呼ばれるエネルギー創成魔術。〈ネフィリム〉は単なる石を莫大なエネルギーへと変換する〈魔術〉。
樋村 天界の秘密の中でも最重要機密と言う訳か。
壬生 でも、この〈魔術〉の恩恵で、人々は豊かな生活を手にすることが出来た……。
秦 豊か？（笑う） だが、その代償はあまりにも大きすぎた。
棚橋 確かに、それは人間達が取り扱うには危険すぎる〈魔術〉。
樋村 〈ネフィリム〉は人間の手に負えるものではない——。
壬生 それが天界の下した最終判断？
秦 だから、〈あれ〉が引き起こされた。
壬生 〈グリゴリ〉ではなく〈ネフィリム〉が真の攻撃対象？ そうかしら、グリゴリを殲滅するという私たちの努力は杳として報われず、業を煮やした天界は過激な決断をした……。そうは思わないの？
秦 〈大洪水〉……。あの〈大洪水〉でグリゴリどもを殲滅しようと目論んだのだとしたら、最悪の判断という他はない。

舞台後方のスクリーンに投影される洪水の映像。
防波堤を軽々と乗り越える大津波／流されていく車／車の中から撮られた濁流が溢れる国道……

棚橋 天界は送り込んだ俺たちを救おうとすることもなく……。
樋村 警告すら与えることなく、俺たちもろとも……。
秦 たくさんの天使が死んだ。洪水に吞まれ、泥に汚れ、瓦礫に挟まれ……。死体から突き出した天使の翼。汚物にまみれ、骨は折れ、羽毛も抜け落ちて……。
棚橋 死ぬと元に戻るんだな。もぎ取られた翼がさ……。

泥にまみれて横たわる天使の白黒写真。白い翼が泥にまみれている。
瓦礫の下敷きになって死んだ天使。瓦礫の隙間から濡れそぼった羽がはみ出している。

樋村 〈大洪水〉は天使ばかりでなく……。
壬生 それ以上に多くの人間達の命を奪った。
秦 更には、〈ネフィリム〉のひとつが制御不能となる……。

立方体をした「特殊な建物」から突如白煙が噴き上がる映像。遅れてカメラアングルがぶれる。

壬生 失われたものは多かった。でも、地上の〈ネフィリム〉のすべてがあのかの〈大洪水〉によって停止することになった。そういうこと？
秦 だが、一時的な停止に過ぎない。単に止めるだけにしては、代償が大きすぎるし、それに……。
壬生 あろう事か、グリゴリも生き残ってしまったし……。
樋村 だが、こうして俺達天使4人も、かろうじて生き延びている。
秦 分からないのは、〈大洪水〉の規模だ。グリゴリどもを殲滅しようとしたにしては、中途半端すぎるとは思わないか？
棚橋 中途半端？ 冗談止せよ。俺にはまるで〈世界の終わり〉に感じられたぜ。
壬生 〈世界の終わり〉？
樋村 〈最後の審判〉……か？
棚橋 そう、〈最後の審判〉。ジャッジメント・デイ。この世の終わり……。

スクリーンに投影される白黒写真。瓦礫の隙間から突き出した一本の腕だ。手には十字架のペンダントが巻き付いている。

秦 あれは〈終わり〉なんかじゃない。あのかの〈大洪水〉は〈始まり〉なんだ……。

舞台上の男女が退場する。
オープニングテーマ「Unbreakable/Fireflight」が響き始める。
蛍光灯が明滅しながら点灯するように、劇団名・公演回数がスーパーインポーズされる。

Bö-tanz XXXIX

画像は、中央の一本の腕にズームアップ。
白黒写真に閃光が走ると、徐々に色がつき始める。
と、静止画像だと思っていたその腕が、痙攣し、振り上げられる！

スーパーインポーズされる公演タイトル

UNBREAKABLE アンブレイカブル

登場人物達が役名と共に映像に登場する。
何故か、白い翼が人物を包み込むように現れたりする。
同時に白い羽毛が宙を舞っていたりもする。
背面には〈セフィロトの樹〉。ズームし、パンし、分裂し、回転し、反転し、閃光を発し、爆散し、破片が集まり、再生する――を繰り返している。

スタッフロールの後、ロゴと共に

制作 演劇レーベル Bö-tanz

がスーパーインポーズされ、
映像がゆっくりと暗転していく。

1. おっさん達、不摂生を気取る

暗転の中、何かが聞こえ始める。

カラカラとグラスの中の氷がぶつかり合う音。

そして、忙しくタバコを吸う音……。

ゆっくりと舞台が明るくなっていくと、丸いテーブルを囲んで三人の男が舞台上にいるのが分かる。秦、棚橋、樋村の三人だ。

タバコをぷかぷか燻らして、オンザロックをあおっている。テーブルの上にはバーボンの瓶(トリスの3リッター容量の業務用デカペットボトルの方が適しているかも知れない)。

もうもうと立ち籠める煙。

舞台袖から聞こえてくる声。「何これ？ まさか火事？」——大念の声だ。

大念楓(だいねん・かえで)と但峰大介(ただみね・だいすけ)が登場する。

大念 (煙の原因がおっさん達のタバコであることに気付き、啞然として) てか、火事じゃねえし……。

但峰 何やってるんですか、皆さん？

大念 (これ見よがしに咳き込んで、手で部屋の空気を横行にかき回し) ごほごっほ。但峰君。窓開けて、窓。タバコの煙で窒息しそう！

但峰 はい。(窓を開ける仕草) 何やってるんですか、事務所は禁煙だって言ったでしょ！

三人、きょとんとしている。

樋村 知ってるよ。

大念 じゃあ、指に挟んでいるそれは、何？

秦 何って……(自分の指先をまじまじと見つめ、突如気付いたといういかにもくさい演技で) あっ！ これ？

大念 そう、それ。

棚橋 これ、タバコじゃないよ。

秦 当たり前だろ。舞台でタバコなんか吸ったら、シアターグリーン出入り禁止だ。なあ？

樋村 舞台って？

秦 んっ？ なんだっけ、それ？

但峰 タバコじゃないなら、何なんですか？

棚橋 (自慢気にタバコを示し) 電子タバコだ。

大念 電子タバコって……何？ つーか、タバコじゃん。だって、煙……

樋村 煙じゃない。水蒸気だ。

但峰 水蒸気？

秦 (こくりと頷き) 電氣的に発生している……らしい。

樋村 ノン・タール。

秦 ノン・ニコチン。
棚橋 だからヘルシー。
三人 かんぱーい(琥珀色の液体が満たされたグラスをぶつけ合い、一気にあおる)
樋村 くうー、効くなあ、こりゃ。
秦 馥郁とした芳醇な香りが鼻から抜けていく……。
棚橋 オヤジ冥利に尽きるね。
大念 こら、お前ら、真っ昼間からなにやってる？
棚橋 飲んでるだけだけど。なにか？
但峰 ここは紛いなりにも法律事務所ですよ。
樋村 まあ、まさに〈紛いなり〉だが……。
大念 って、あんたに言われたくはない。
但峰 顧客が、アポイントもなしに不意に現れるかも知れないでしょ？　そこで、この惨状を目の当たりに……

秦 惨状？　どこが？
但峰 こいつら！　もう許しませんよ！（とうとう切れちゃったぞ）被災地帯から避難されている可哀相なあなた方ですから、同情を禁じ得ませんが、言いたいことは言わせてもらいます。

大念 おー。大介、カッコいいぞ。行け行け、臆せず言っちゃえ。
但峰 (酒瓶を手に持ち上げて)どうしたんですかこれ？　電力会社からもらってる賠償金で、買っちゃったんですか？

秦 そうだけど、なにか？
棚橋 俺らがもらった金で、何買おうが俺らの買ってじゃん。その上、あろう事か、就労不能損害補償で15万円も貰ってますよ。
大念 (独りごちて)見かけによらず、リッチメンだな、おっちゃん達……。
樋村 つーか、賠償金の使い道で会計監査が入るんですかね？　(秦に)入るのか？
秦 んなわきゃねーだろ。
樋村 だってさ。
大念 「だってさ」って、何鬼の首取ったように語ってるわけ？　むかつくなあ。
但峰 壬生先生があなた方を「天使だから許してあげて」とか仰ってますが、「腹に据えかねることが多いとは思うけど、勘弁してあげて。天使だから」って宣ってますけど……
棚橋 本当に天使なんだから、仕方ないだろ？
但峰 天使だったら、もっと天使らしくしっかりして下さい！
樋村 はあ？　イタリア人に向かって、「イタリア人だったら、イタリア人らしくしっかりして下さい」って言っているようなもんだぜ、それ。
秦 まさに形容矛盾だな。イタリア人はそもそもラテン系だし、昼飯喰ったらシエスタで昼寝だし……
但峰 シャラップ！　その切り返しのロジックが僕にはまるで分かりません。
棚橋 というか、理解しようとする努力が君に足りないのでは？
但峰 ……(言葉を返そうとするが、怒りで何も出てこない)
大念 そもそもさあ。天使だっていうのからして眉唾くさいし……。

秦 おいおい、なんて恐ろしいことを口にするんだ、この娘は？
大念 だってさあ、天使がなんでイケてない感じのおっちゃんなわけ？
秦 は？ 基本的に天使はくぱっとしないおっさんの姿で現れる事に決まってるんだろ。
樋村 1987年にベルリンに降り立った天使だって、所謂おっさんの姿だった。
大念 ベルリン？
棚橋 ヴィム・ヴェンダース【『ベルリン・天使の詩』(1987)】だ。
大念 ビム……って？
棚橋 「ビム」じゃねえ。唇噛んで「ヴィム」だ。「V」だよ「V」。
樋村 ヴェンダースはドイツ人だから、「V」じゃなくて「W」じゃねえか？
棚橋 あのさ、突っ込みどころ、違うから。要は噛むか噛まないか。
秦 あれにピーター・フォーク出てきたろ？
大念 ピーター……誰だって？
棚橋 刑事コロンボ【1972-79年にNHKで放映されたピーター・フォーク主演のミステリドラマ】
な。
樋村 コロンボじゃない。まんま、ピーター・フォーク役での出演だ。
秦 そう。そのピーター・フォークっておっさんも天使だった……。で、分かってもらえた？
大念 なにを？
秦 基本的に「天使はオヤジの姿を借りて現れる」って。
大念 (すまなそうに首を横に振る)
秦 しょうがないな。じゃあ、もっと噛み砕いて……。
大念 いいよ、もう。何となく飲み込めたから……。
棚橋 ダウト！ こいつ飲み込めてない。
大念 つーか、どんな説明されたところで、意味分かんないから。だって、天使じゃないもん。
ぷん……。 (切れちゃったぞ)

但峰と大念が無言で三人のおっさん達をにらみつけている。

秦 (囁き声で) 楓ちゃんも大介君も何を怒ってるのかな。
樋村 (囁き声で) 虫の居所が悪いんじゃないかねーの？
棚橋 (囁き声で) まさか、出がけにうんち踏んじゃったとか？
大・但 踏んでません。
棚橋 あっ、聞こえてた？
但峰 あのですね。怒っているのは、あなた方が……。
大念 真っ昼間から、酒あおっているからでしょ……。
樋村 (きょとんとして) 酒？
秦 (きょとんとして) はて？
棚橋 (きょとんとしつつ、グラスを示し) これ？
大・但 (強く) それ！
棚橋 酒じゃないよ。
大念 その場限りの嘘を言うんじゃないやありません……

秦　　これ。○ントリーの黒烏龍茶。

樋村　脂肪を分解

棚橋　その上、特保！

大・但　は？

三人　（杖をつくようによろよろ前進し）転ばぬ先の……（毅然とポーズを決め）メタボ対策！

大・但　（頭抱える）

樋村　秦さ。なんで○ントリー……って、メーカー名をぼやかすわけ？

秦　　あたりめーだろ。提携公演じゃねえし、広告費もらってるわけじゃねえんだから……。

樋村　提携公演？

秦　　んっ？（笑顔で）なんだっけ、それ？

但峰　本当に○ントリーの黒烏龍茶というんなら、なんでウイスキーの瓶に入ってるんですか？

棚橋　そりゃ、お前……恥ずかしいからに……。

三人　決まってるだろ！

但峰　恥ずかしいって……。

棚橋　この恥ずかしさを理解するのは、お前には 100 年早いが……。

樋村　正しくは 20 年ぐらい早いが……。

秦　　恥ずかしいんだよ。特保は！　たとえば、コンビニで〈カテキンなんとか茶〉とか買うとするじゃん。すると、レジの女の子が……。

樋村　「あっ、特保だ。このオヤジ、結構健康を気遣ってやがるな……」

秦　　「いやいや、気遣ってなんか、ないない」

棚橋　って、徹頭徹尾否定しようとしたいのに……。

秦　　現状のコンビニのレジシステムにおいては。

樋村　その機会が与えられることはない。レジの娘の心の中で、俺は「特保大好き、健康気遣いオヤジ」ってレッテルが貼られてしまうわけだ。

棚橋　（悲しげに首を横に振り）永遠にな。

大念　永遠って……そんな大層な。

秦　　（棚橋と樋村に）なあなあ、コンビニで酒買ったときに、年齢認証ボタンって画面に出るじゃんか。ポチッと押すやつ。あのプログラムをベースにして、特保買ったときに、質問が表示されるようにすればいいんじゃないか？

樋村　だな！（と、小膝を打って）「特保をお買い上げ頂きましたが、メタボ対策含め、結構健康を気遣っておられるのですか？」（画面のボタンを模した仕草で）「はい」、「いいえ」……。

秦　　で、迷わず「いいえ」を押す。

棚橋　うんうん。溜飲降りるな、それ。

大・但　降りるのか、それで！

秦　　で、レジの女の子も……。

樋村　「特保買ってるけど、このオヤジ、特に健康を気遣ってる分けじゃなさそう。っていうか、結構ワイルド系かも？　ってか、ちょい悪系？」

秦　　と、納得し……

樋村 画面に「今夜仕事上がるのは 8 時だけど、どっか飲みに連れてってくれる？」、「はい」、「いいえ」……。

秦 で、迷わず……「いいえ」を押す。

大・但 (床の引っ張りに足を引っかけたかのように前につんのめり) ええっ！ 流れ上、そこは「はい」じゃないのお？

三人 それがオヤジの美学だ。

大念 (眉を顰めて) つーか、意味分かんないし。

但峰 複雑怪奇だなあ、オヤジの美学……。

棚橋 まっ、お前には 100 年早い。

秦・滝 より正しくは、20 年ぐらい早い。

背後からかけられる声。「おい、そのくだらない特保ネタで何分引っ張るつもりだ？」
舞台奥に壬生匡子が立っている。

棚橋 おっとお。やっとボス弁先生のご登場か？

あっ、すっかり説明するのを忘れていたが、ここは壬生法律事務所だ。壬生は壬生法律事務所の所長、すなわちボス弁である。ついでに説明しちゃうけど、ラフながらもスーツ姿の但峰大介は壬生の部下の勤務弁護士(イソ弁)で、カジュアルな服を着た大念楓は壬生の秘書兼助手といったところか。なお、大念は弁護士免許を持っていないし、別に弁護士になりたいとか、これっぽっちも考えたことはない。

秦 人聞きが悪いなあ。引っ張るも何も、匡子が来るのを待って時間を潰していただけたら。

大・但 時間つぶして……おい！

大念 ねえ、壬生先生。このおっちゃん達、ちょっとむかつくんですけど。

壬生 むかつく？ どうして？ 素敵なおじさん達じゃない。

三人 (何度も頷く)

大念 それに事務所がめちゃくちゃです。ここは痩せても枯れても「弁護士事務所」ですよ。なのに、酒瓶とか、寝袋とか。あと、週刊誌が山のように……ビッグコミックオリジナル、週刊現代に週刊実話。「貞淑美女タレントの性白書 感度抜群の美乳を持て余す、ひとりエッチ性生活」って見出しは、なんですかあ！【←最後の「なんですかあ！」は往年の坂本金八先生風で】

但峰 先生。帰還困難区域からの避難者だったら、もっと適当な受け入れ施設があるはずだと思うんですが……。

樋村 こらこら、人を居候のように言うんじゃない。

棚橋 そうだそうだ、お前みたいなイソ弁風情に言われたくない。

秦 イソ弁とは「居候弁護士」の略だろ？ 居候に居候呼ばわりされるのはちょっときついなあ……。

但峰 最近「イソ弁」なんて言い方はしません。「アソシエイト」そう呼ぶのが一般的です。

棚橋　でも、実質は居候だろ？
但峰　違います。
壬生　大介君は逆立ちしても「イソ弁」だから。「アソシエイト」なんて気持ち悪くて呼べるかって一の。
但峰　壬生先生。そんなあ。そこは、上司という立場上、フォローに回って頂かないと……。
壬生　なんで？（と、にべもない）いい、大介君。彼らは単なる避難者ではなく、避難者の上に天使なの。避難者を受け入れてくれるところはあるだろうけど、避難天使を受け入れてくれるところなんてあるの？
但峰　避難天使ってなんですか？
大念　天使だろうがなんだろうが、見た目普通のおっちゃんなんだから、いくらでも紛れ込めるでしょうに？
秦　あっ、ちょっとカチンと来たぞ。紛れ込むって？　そんなの卑怯なやり方だ。
樋村　天使のプライドを捨てろって言うのか？
棚橋　俺たちは決してプライドを捨てはしない。
但・大　プライドあるんだったら、きちんとして下さい。
壬生　まあまあ、二人とも。仕方ないじゃない、天使達に行くところないんだからさ。
大念　あの先生……お言葉を返すようで、心苦しさではらわたが煮えくりかえりそうなんです……。
棚橋　（合いの手的に）表現、変だぞ。（秦・樋村、頷く）
大念　本当にこのおっちゃん達は天使なんですか？
壬生　そうだけど。
大念　天使で、且つ魔法も使える訳ですよ？
壬生　そうだけど。
大念　じゃあ、見せて下さい、魔法。
壬生　（秦に）だって。
秦　俺が？　なんで？　やだよ。
壬生　そこをなんとか。見せれば楓ちゃんだって納得するでしょ。
大念　で、とやかく言わなくなる。
秦　は一つ、仕方ないな。（両手を広げて、手のひらを見せ）なにもないよね？（といって軽く握るってひらくと、一個の弾丸が現れる。弾丸を指で摘んで示す）はい。弾丸が現れた。
大念　つーか、それ手品だろ。グーでパンチするぞ、お前！（と、右手を振り上げる）
秦　（大念のパンチを制し）弾丸は、手に汗握って見つめている大介君の胸ポケットの中にも……。
但峰　（胸ポケットから秦が弾丸を取り出すのを見て）あっ、弾丸だ。
秦　壬生の手の中にも……。樋村の後頭部にも……。棚橋の鼻の穴にも現れる。

三人、不思議そうにして「ホントだ」と口々に呟く。

秦　そして、俺を殴ろうと固く握りしめた君の拳の中にも……。

大念 (握りしめた拳を開き、手のひらの上に弾丸が乗っているのを目の当たりにして、驚く)
弾丸!?

秦 これは〈アマダスの弾丸〉。天使も殺せる魔法の弾丸だ。

大念 魔法の弾丸?

秦 少しは信じられたか?

大念 うーん。

秦 かたくなだねえ。

壬生 でも、これが天使の魔術。好きなところ、どこにでも魔法の弾丸を作り出せる……。

秦 どこにでも創成できるわけじゃない。(拳銃を取り出して)この拳銃の弾倉を満たすのは、朝飯前なんだが……。

大念 拳銃!? まさか本物?

秦 さあ、どうかな? 本物かも。

大念 先生。このおっちゃん、拳銃持ってますが!

壬生 当たり前じゃない。

三人 俺たちは「殺戮」天使なんだから……。 (棚橋も樋村も拳銃を手に入れている)

壬生 天界を裏切り、地に落ちた天使達を抹殺するために地上へと送り込まれた天使……。

但峰 裏切った天使達。災いなるものの名前は〈グリゴリ〉。(壬生に)そうでしたよね?

大念 でも、銃刀法に抵触するんじゃない……。

壬生 そうかも知れないけど、司法に天使が裁けるのかしら?

但峰 (感慨深げに)確かに、天使は治外法権か……。

大念 天使だったら、なんでもありか?

秦 俺たちはこの弾丸で〈グリゴリ〉どもを狩る。

棚橋 レプリカントを捉えて壊す『ブレードランナー (リドリー・スコット、1982)』みたいなものだ。

但・大 ん? なんだブレードランナーって?

樋村 えっ? 知らないの?

棚橋 平成の子供達は『ブレードランナー』を知らないのか?

但峰と大念が頷き、壬生が肩をすくめる。

棚橋 おいおい、参ったなあ、知らないんなら、どこから説明すれば……。

壬生 〈ブレードランナー〉の説明はいらないでしょ。あなた方が天使だって、楓ちゃんも納得してくれたんだからさ。

大念 疑り深い達なので、まだ微妙ですけどね。

壬生 かたくなね。そんなことより……(と、ファイルを掲げて)「殺戮」天使であるあなた方にお仕事よ。

但峰 お仕事って、グリゴリ狩り? でも、グリゴリって一体どんな奴なの? まあ、グリゴリって名前の響きからいけば……グリッとしてゴリッとした感じなんでしょうね?

壬生 なんだ、グリッとしてゴリッって?

但峰 だから、響きからのグリゴリのイメージ。

壬生 グリグリっていうのはスラブ語で「監視する者」の意味。英語では「ウォッチャーズ」。

大念 監視するって？

壬生 それは人類を監視する任務を与えられた天使の一群だったから。それらが後に天界を裏切ることになる。

大念 なんで裏切ったの？

壬生 (肩をすくめる)

但峰 意味はともかく、裏切り者なんだから、きっとグリッとしてゴリッとしているはずだ。

壬生 大介君さあ、グリッとしてゴリッはともかく、彼らにこのファイルを渡して、仕事の話をしてしまいたいんだけど……。

但峰 それより、グリゴリのイメージが重要です。絶対にグリッとしてゴリッと……。

壬生 (面倒くさくなって)はいはい、そうだ。グリッとしてゴリッだ。大介君そこ退いて……。博、これが作戦ファイル……。(秦にファイルを渡そうとするのがだが、横やりが入っている)

大念 (秦に)〈アマダスの弾丸〉ってグリゴリを殺せるって言ってたけど、その弾丸は人も殺せちゃったりするんでしょ？

秦 どう思う？ (と、銃口を大念の胸に当てて)ホールド・アップ。

大念 (両手を挙げて)引き金引いたら私も死んじゃう……でしょ。

秦 どうか？ 試してみる？

大念 命を賭ける勝負とは到底思えないけど。 心臓撃ち抜かれて、床の上にコロッって感じ？

秦 いやいや、実は恋に落ちちゃう魔法の弾丸で、ハートを撃ち抜かれて俺にコロッってことに……。

大念 なったりしない。

秦 かたくなだね。

大念 私が恋の魔法にかかることはないと思うよ。何がどう転んでも……。

秦 箸が転んでも？

大念 はあ？

秦 橋幸夫が『潮来の伊太郎(正しい曲名は『潮来笠』)』の歌い出しでうっかり転んでも？

大念 ますます、はあ？

秦 あったりするかもよ、恋の魔法。ねっ？ (と、銃口を外す)で、匡子。ミッションっていうのは何なんだ？ (壬生から資料を受け取り、ページをめくる)

壬生 (息を大きく吐き)やっと渡せた……。

大念 何なんですか？ このおっちゃん。

棚橋 (大念を呼んで、小声で)楓ちゃん。あのおっちゃんに騙されんなよ。あいつは元セクハラ教授だったんだぜ。

大念 セクハラ？ 教授？

但峰 マジで？

棚橋 マジで、セクハラ教授。

秦 おい、棚橋。(折角受け取った資料を壬生に返し)間違っことを言うな！

棚橋 間違っないだろ、セクハラ教授。

秦 違う！ 教授じゃなくて、准教授。セクハラ准教授って正確に表現して欲しいと、何度頼

めば分かるんだ？

樋村 つーか、拘泥するの、そっちか？ どっちかって言えば〈セクハラ〉の方に過敏に反応すべきじゃねえか……。

秦 樋村。セクハラについてはこの際どうでもいい。真実は未だ霧の中だが、実際、大学を依願退職してるわけ、俺。新聞紙面も飾ったし、2 ちゃんの「【行列のできる】教授のセクハラ【相談所】」っていうスレッドでも、主に俺のネタのみで〈1001 レス〉が三回連続で出たんだから、「俺がセクハラ」ってことは社会的に事実として認められているわけ。

樋村 そりゃそうだけどさ、その〈霧の中の真実〉を知りたいわけで……。

棚橋 ところで〈1001 レス〉ってなんだ？

樋村 「このスレッドは1000を超えました。もう書けないので、新しいスレッドを立ててくださいです。。。｣っていうやつだ。

棚橋 「立ててくださいです」って日本語おかしいだろ？

樋村 そういう定型文なんだよ。

棚橋 定型文？ つーか、なんだそれ？

秦 だから、2 チャンネルだって。

棚橋 は？

秦 は？ ぢゃねえ！ 面倒くせえなあ、もう。とにかく、俺の最終役職は教授じゃなくて、准教授だったわけだから、正確に〈セクハラ准教授〉って擲揄しろ！

棚橋 って、擲揄していいのか？ それとも、積極的に擲揄して欲しいのか？

秦 そうだ。そう擲揄しろ！

壬生 (とうとう切れて) つーか、話が全然前に進まないでしょ！ (資料で秦の頭を小突き) どうでもいいから、目を通せ、この資料に。これがお前らのミッションだ。

秦 はいはい、分かったよ。(壬生から資料を受け取り、目を通す) このミッション……。 (顔色を変える) マジかよ。

壬生 マジ……。よく聞いて。これは重要なミッション。天使達にはできない……。狩りのプロであるあなた方しかできないミッション。

棚橋 だから、ミッションって……。

樋村 なんだよ。

秦 (資料から視線を外し) 俺たちのターゲットは……。

壬生 コードネーム、パピヨン。

棚・樋 コードネーム、パピヨン!?

その名前を聞き、樋村の表情が引きつるかのように引き締まり、棚橋の口元が不審げに下がった……ように見えたが、単なる気のせいかも知れない。

「大丈夫かな、このおっちゃん達」と不安げな面持ちの但峰と大念。

舞台が暗転する。

2. おっさんは家が流されてもどうにかするのだ

舞台中央に立つ、秦。

その背後に女が立っている。女の名は早坂朋美(はやさか・ともみ)。東日本技術科学大学理学部地学科の助教だ。

早坂 先生？

秦 あのさ、早坂さん。頼むから、先生と呼ぶな。

早坂 なんで、先生じゃん。

秦 もう、先生じゃないだろ。君はもう学位を取得し、博士となって、大学で職を得た……。東日本技術科学大学理学部地学科助教、早坂明美。将来を嘱望された有能なる若き地震学者。君はすでに立派な先生だ。俺の学生などではない。

早坂 親がいくつになっても〈親〉であるように、学位取得後何年経ったって、指導教官は〈先生〉だよ。

秦 知っての通り、俺は大学をすでに退職している。もはや先生と呼ばれる資格すらない。

早坂 大学辞めても博士号は残ってる。学位記持ってるでしょ？

秦 学位記？ あんなもん、シュレッダーで細かく裁断した後、食べかけのアジの干物と飲みかけの納豆汁と一緒にくたにして、燃えるゴミとして捨てた。

早坂 アジの干物と納豆汁……結構、健康的な朝ご飯だね。(と、にっこり笑う)

秦 早坂さんさあ、食いつくところ、そっちじゃねえだろ？ っていうか、朝飯じゃなくて、貧相な俺の晩飯なんだな、それ。

早坂 ねえ、先生？

秦 だからさ、先生って呼……。

早坂 流されちゃったんでしょ、先生のお家。

秦 まあ、海に見える岡の上の小さなあばら屋だったからな。土台残して、全部持ってかれた。一切合切、すべてが海の藻屑だ。

早坂 どうするの、これから？

秦 どうにかするさ。

早坂 ずっと避難所？

秦 今はね。でも、ツテがある。

早坂 遠くへ行っちゃう？

秦 さして遠くではない。

早坂 ねえ、先生？

秦 なんだ？

早坂 来たっていいんだよ。

秦 どこに？

早坂 私の家。被害は大したことなかったし……。狭いけどね。でも、どうにかなるよ。「早坂さん。お言葉に甘えて、来ちゃったよ」みたいな軽い展開で。「狭いけど、こざっぱりしているね、君の部屋は。壁に掛かっているこの絵は、きらきら光る海の中でイルカがぎゅんぎゅん泳ぎまわっているこの絵は……クリスチャン・ラッセンだね。つーか、キャッチセー

ルスにまんまと騙されちゃったのかな。きつと渋谷とかで引っかけられて……。ほら、やっぱり当たりだ。……って、そんなに凹むなら、飾らなければいいだけだろ。はあ、自分自身への戒め？ もう二度と同様の手口に引っかからないように、だって？ ははは、早坂さんらしいよ、それ」

秦 結構続くのか？ その一人芝居……。

早坂 (首を横に振って)だから、先生。朝ご飯もちゃんと作るからさ。ベッドも狭いけど、どうにかなるって。「早坂さん。こんな狭いベッドじゃ……。大丈夫、俺は床で寝るから……」って流れになっちゃいそうだけど、ところがどっこい。「……って、どうして早坂さんまで床で寝ることになるわけ？ 早坂さん、ちょっと近づき過ぎじゃない。もうちょっと離れようよ。くすぐったいから……んっ、シャンプー何使ってるの？ ツバキ？ ○生堂の。正直に結うけど、俺、これ系の匂いに結構弱いんだよね」

秦 どうしても、一人芝居したいんだ？

早坂 したいんじゃなく。何故か、自動的にスイッチが入っちゃうんだよね。一人芝居の……。

秦 早坂さんさ。本当に有り難いんだけど……。

早坂 先生、強がんなくなっただけいいんだって。困ったときはお互い様って……。

秦 哀れんでくれてるのか？ 大学クビになった上に、家まで流された俺を……。

早坂 哀れむとか、そんなんじゃないでしょ。どうして、そんなひねくれた言い方するのかな。

秦 それは俺がひねくれ者だから。生まれたときから、性根が曲がってるの。(身体をねじって)こんな感じで……痛、痛、脇腹つった。

早坂 とにかく、騙されたと思って家に来てよ。で、騙されて買ったクリスチャン・ラッセンと一緒にしようよ。

秦 「君自身への戒め」の絵ってやつを？ もともと1万円の価値もないシルクスクリーンの量産品を、月賦で30万円払っちゃったってヤツを？

早坂 おいしい。金額もう一声「上」だった。(首を横に振って)……でも、その時には、もし先生が家に来てくれたら、その絵に関して違う説明をしようと思ってる。「戒め」なんかじゃなく、別の……。絵を飾っている理由は「それでも、海が好きだから」。先生と最後に行った海洋調査。JOGMECの調査船で太平洋に向かった……。

秦 ワイヤーライン型の自動掘削機を使っただけの海底掘削……。

早坂 そう。船尾の巨大なフレームクレーンから15トンもある自動掘削機BMSをワイヤーケーブルで海面下3000mまで降ろして、太平洋プレートの海底を掘削調査した。先生。私ね、あの調査クルーズで海のことを本当に好きになったんだ。(くるりと一回転し)360度見渡す限り海。それって、生まれて初めての経験だった……。

秦 宮城県牡鹿半島沖100kmの位置での海洋調査。北米プレートに引き吊られて褶曲した太平洋プレート上だ。

早坂 それは神戸大の調査チームが行った海底電位差磁力測定で地磁気異常が観測された地点。その地磁気異常がどのような岩石の負荷によるものか調べるのが目的だった……。

台詞の間に照明が変化していく。

スクリーンに船室の船窓が投影される。

早坂 ……こんなところにいたんですか？ こんな狭い船室にこもってばかりだと、退屈でしょ、先生。

秦 退屈はしていない。娯楽室にあったワンピース 61 巻、全部持ってきた。今、一から読み直してるとこ。

早坂 何処まで読みました。

秦 ぼろぼろになったゴーイングメリー号を修理して、やっとのことウォーターセブンに着いたところ。ちょうど、全体の半分まできたぐらいかな。だから、当分退屈はしそうにない。

早坂 ……。(困った表情を浮かべて黙り込む)

秦 あー、ところでさ……。BMS の掘削の方はどんな感じなの？

早坂 海底下40m付近まで掘削が進んでます。ただ、固い岩盤に当たったらしくて、ドリルの進みが鈍くなっているようですけど。

秦 固い岩盤？ キャップロックにぶつかったのかも。とすれば、その下に大きな熱源があっっておかしくない。どう思う？

早坂 そうかも知れません。その下まで掘り抜くことが出来れば、素敵ですけど……

秦 (時計を見て)もうすぐ2時45分か。巻き上げの時間も考慮するなら、掘削作業の残り時間は30分少々……。果たして、キャップロックをぶち抜けるかな？ ドキドキするね。

早坂 そんなに興味があるんだったら、一緒にBMSの操作室に行きましょうよ。

秦 どの面下げて？ 俺は大学辞めたんだぜ。で、この調査クルーズのリーダーも君に譲った。元セクハラ准教授がのこのこ出て行けるか？ 君の強引さに押し切られて、この航海に参加したことを航海しているよ。これダジャレだけどさ。航海を後悔なんて……。

早坂 後悔しないで下さい。というか、この調査のプロポーザルは先生が申請したものです。だから、誰がなんと言おうと、先生がこの調査クルーズのリーダーなんです。

秦 いや、今や君がリーダーなんだな、これが。

と、ゴトンと音がして、船体が大きく揺れたようだ。
よろけた早坂を秦が受け止める。

早坂 すみません。揺れますね、船。午後になってから、急に波が高くなってきたみたいで。

秦 船内を移動するときは気をつけた方がいい。そもそもこの船は揺れやすいんだ。海底地形を把握するためのサイドソナーの障害にならないように船底(ふなぞこ)が平らに切り取られてる。だから、ちょっとした横波でも、大きく揺れたりする。

早坂 ……。(黙り込んで、俯いている)

秦 どうした？

早坂 ……先生は、大学だけでなく、研究者も辞めるんですか？

秦 ……。

早坂 答えて下さい。

秦 ……。

早坂 納得がいきません。科学的なデータに基づいて、自らの信念に従って、〈ネフィリム〉の危険性を訴えただけなのに、こんなあからさまな罠にかけられて、社会的に抹殺されてしまうなんて、全然納得いきません。私、何度も訴えました、大学の懲罰委員会に。でも、

私の話なんか誰も聞こうとしない……。こんなの間違ってます。全部、間違ってます。先生はどうして戦わないんですか？

秦 戦ってるさ。違うやり方で……。

早坂 ダメです。先生はアカデミアとして戦うべきなんです。

秦 俺の代わりに君がいる。俺より遙かに優秀な科学者の君が……。

早坂 (首を横に振り)いえ、先生の代わりなんて……。私、先生にはなれません。

秦 当たり前だ。俺になる必要なんかない。君は君になればいい。そして自らの信じることを為せ。

早坂 先生、私……。

ガックオーンという、山ほどの大きさの巨人がぶ厚い鉄板を殴りつけたような音が響く。早坂がよろめき、秦が胸で受け止める。

早坂 先生。一体、なにが……。

秦は早坂を見つめたまま、首を横に振る。
舞台が急速に暗転する。

3. おっさん達の知らないところで話は進む

舞台上にふたつの影——タミエルと男だ。

男は石間興産・総務部長の滝野雅哉(たきの・まさや)。スーツ姿だが、ご多分に漏れず、とても堅気には見えない。石間組の若頭だから当然か？

滝野 ……だから。あの NGO は問題ない。頭のネジが一本飛んだババアが、自分のイライラを解消するために、騒いでいるだけだ。

タミエル でも、滝野。主婦層を中心した大きなうねりに発展しないとも限らない……。

滝野 海に流された低濃度のウラヌスが生物濃縮されるって？「東日本の露地物の野菜はすべてウラヌスで汚染されているので、食べてはいけない」と言う連中の言うことなど、誰が信じる？ 科学的な視点に基づいたものではない。その主張になんの説得力もない。喰いたくないヤツは喰わなければいい。ヤツらは「うたかた」だよ。

タミエル うたかた？

滝野 水面に現れた泡だ。やがては弾けて消える。漁民の皆様にはご理解頂けたし……。

タミエル 金の力と、脅しで？

滝野 人間きの悪い。帝都大学の大先生が、あの世界的な海洋学者の「海は広いな、大きいな」という感動的な理論に漁民すべてが心を動かされ、感動のあまり涙を流しつつ首を立ててに振ったんだ。高濃度のウラヌスだって、地下水で希釈し、更に大きな海の中に拡散していけば、検出限界以下となる。検出できないのなら……。

タミエル 存在していないのと同じ……。

滝野 そうだ、タミエ。それが科学的視点というものだ。斯くして、処理水の海洋放出が始まる。それもこれも、俺たち石間興産の暗躍があればこそだが。

タミエル 石間興産？ 友誠会石間組の間違いだろ？

滝野 (鼻で笑い)汚染水処理でアップアップの関東電力も、これで大喜びだ。そして、俺たち裏の実働部隊の存在感は益々大きくなる。

駆け込んでくる一人の女。アルマである。

後ろから滝野に抱きつく。がしっと抱きつく。

アルマ なんだよ、雅哉。こんなところでこそこそと。

滝野 アルマ。こら、抱きつくな。

アルマ (背後からお腹を締め上げて)二人っきりで、タミエとしっぽり？ 妬けるなあ……っていうか、龍っちゃんに告げ口するぞ！

滝野 (苦しそうに)こらこら、オヤジを龍っちゃんなんて言ったら、どやされるぞ！ 石間社長と……

アルマ なんで？ 石間龍雄だから、龍っちゃんでもいいじゃん。

滝野 (苦しそうに)つか、苦しいんですけど……。

タミエル アルマ放してやりな。苦しがつてるぞ。

アルマ いいの。浮気者にはお灸を据えないと……。

滝野 (超苦しそうに) 浮気者じゃありませんし……。マジで苦しくて、息も満足にできません……。

タミエル アルマ！

アルマ じゃあ、許す。(と、滝野を放す)

滝野 (はあはあ、肩で呼吸をし) なんちゅう力だ、馬鹿野郎。口から胃とか腸とか、いろんな臓器がオロって出ちやいそうだったぞ。

アルマ ごめんごめん。でも、隠れて逢引きしてたからさー。

タミエル 逢引きじゃないから。

滝野 オヤジのイロに手を触れるわきやねーだろ。嫉妬するなら、もっと可愛く嫉妬してくれ。

アルマ 十分可愛いと思うけどなあ。 あっ、そーだ。さっき龍っちゃんから聞いたんだけどさ……。

滝野 頼むから、オヤジのことをそんな呼び方しないでくれ。

アルマ いいじゃん。なんて呼んだって。

滝野 良くない。しめしがつかねえだろ。

アルマ 「しめし」ってなんだよ。あれか！ 回転寿司食べてるときに、唇の下んところにご飯粒がぽちっと……。

滝野 それは「酢飯が付いてる」だ。

タミエル つーか、そのネタ、もういいから。アルマ、石間から何を聞いたっていうんだ？

アルマ 明日ね。二人で行くんだって、あそこに。

タミエル あそこ？

滝野 〈立ち入り禁止区域〉だ。俺とオヤジで〈ネフィリム〉まで、出張ってくる。日本〈ネフィリム〉開発のお偉方まで足を運んでくるんだ。視察の名目で……。

タミエル 名目？

滝野 今後の方針を〈彼の地〉で話し合いたいと……。

アルマ みんな物好きだね。

滝野 そうじゃない。あそこでやれば、邪魔者は入ってこないだろ。とにかく、この時分、日本〈ネフィリム〉開発と関東電力、そして石間興産が都内で集まるなんてことがあったら、ラップで何重にもくるんだところで、クソ蠅がブンブンたかってくるのは目に見えてる。だから、視察なんだ。

アルマ そんなもんですかねー。

滝野 そんなもんだ。

アルマ じゃあ、アルプに会えるね。

滝野 アルプ？ ああ、〈ウラヌス〉除去装置アルプスのことか。

アルマ そう。アルプスはアルプの力を借りているから、アルプスって言うんだよ。アルプはゲルマンの古い神話に登場する山の精霊、エルフよ。

タミエル シュヴァルトアルヴヘイム——黒い妖精の国——に閉じ込められていたアルプを私が召喚した。

アルマ アルプは金属細工の熟練工(マイスター)なの。だから、ウラヌスを自在に選り分けることが出来る。

滝野 ああ、噂では聞いている。アルプスの選別能力は折り紙付きだと。ただ、スペック通りに動いたとしてだ。

アルマ 確かに、アルプは気まぐれだしね……。

滝野 これはこう聞いている。気まぐれな上に吸血鬼だ、と。

アルマ 吸血鬼？ 血なんか求めていないわ。

タミエル アルプが求めるのは精力。人間のエネルギーを吸い取るんだ。

滝野 こうも聞いた。アルプが駄々をこねるたび、エサを与えなければならない。

アルマ エサ？

滝野 手配師が送り込んできた現場作業員。使い物にならなくなった中から身元も不確かなヤツを選んで……。

アルマ そんなのじゃ、満足できないよ。アルプが可哀相だと思わないの？

タミエル アルプは不味いエサに辟易しているわ。生きる希望が枯渇した人間など、カスも同然だと、嘆いている。

アルマ もっと活きのいいのを持ってこい！

滝野 待てよ。じゃあ、現役バリバリのプロサッカー選手でも、拉致って来いってか？ 冗談は止してくれ。

タミエル 反〈ネフィリム〉論者。その中でも、とびきり活きのいいヤツを使うのは、どう？

滝野 どういうことだ？

タミエル 今まで、再稼働の障害になる反〈ネフィリム〉どもを金で黙らせ、力でねじ伏せてきた。でも、金になびかず、暴力にもひれ伏さない者はどうしてた？

滝野 罠にはめて、その名誉と立場をことごとく奪い取る。たとえば、反〈ネフィリム〉運動の中心的な役割を担ってきた市民団体代表者が、実は生活保護費の不正受給を行っていたかどで逮捕される……。

タミエル 複数の受給者を立てての不正。生活扶助・住宅扶助・教育扶助……諸々、20%の上前はねて、受給者数をかけ算したら、ウハウハだ。そんな賢いシステムを考えたのが……。

滝野 俺だ。罠をかけるならそのディテールにまでこだわれ、だ。

アルマ ちょっと待て、そのシステムだけで、楽しく生きていけるじゃん、お前。

滝野 馬鹿なこと言うな。そんなせこいシノギで満足できる俺じゃねえ。

アルマ あっ、そうだ。ねえねえ、なんて言ったっけ、あのはめられた教授？ あれ、楽しかったよね。

滝野 ああ、あれな。確か名前は、秦……秦博だ。プレート・テクトニクスの専門家。自分のブログで、〈ネフィリム〉近傍の断層マップどころか、地震の震度予想や〈ネフィリム〉への影響まで事細かに発信してて……。まあ、ただうるさいだけなら問題ないんだが、何故だか、人望もあり、人気もあった。

舞台後方に秦が現れる。しきりにクシャミをしている。

秦 イッキシ……イッキシィ。(鼻をすすり上げて)なんだよ、急にクシャミが？ 誰かが噂をしてるのかな？

滝野 教育者を潰すのはそんなに難しいことじゃない。学生へのセクハラ。その事実を作り出し、外堀を埋める。

照明が、秦と滝野、そしてアルマだけになる。

アルマ (携帯で電話をする仕草。18 歳の女子大学生という設定でがんばれ) 先生助けて……。

秦 助けてって、どうしたんだ、有馬さん。そんな悲痛な声を出して……。

アルマ 困ったことになったの。また、あのホストが……。

秦 君は「ホスト遊びは止めた」って、そう言っただろう。というか、18 歳でホストにはまる君の神経が……

アルマ お金を要求されてるの。話し合いでどうにかしたいんだけど……私一人じゃ……。

秦 有馬さん、今どこに？

アルマ 国道沿いのコートダジュールっていうラブホの前。

秦 ラブホって、お前。

アルマ 部屋の中であのホストが待ってる。すぐ戻らないと……。

秦 どうすればいい。

アルマ すぐ来て！ お願い。

秦 ……。

アルマ 秦先生は、学年主任でしょ！ お願い助けて……。

秦 (深い広報の台上から飛び降りて、アルマの隣に駆け寄る) 有馬さん。大丈夫か？

アルマ 先生、早っ！

秦 車で 15 分以上かかったが、上演時間の都合で割愛した。

アルマ 上演時間の都合？

秦 それはどうでもいい。あのホストは何号室にいる。

アルマ 305 号室……。

秦 行こう。

アルマ 先生。(目に涙を溜めて秦を見つめる) 私怖い。手を繋いで。

秦、仕方なく手を差し出すと、アルマが巻き付くようにその腕を抱きしめる。

秦 有馬さん。ここは富士急ハイランドの戦慄迷宮じゃない。だから、そんなに怯えなくても……って、ちょっと待て！ よく考えたら、富士急のお化け屋敷どころじゃないシチュエーションだよな、これ。

遠くで、カシャっという音がする。

秦 (遠くを見て) 今、何か向こうの方で音がしなかったか？

アルマ (首を横に振る)

秦 行こう。(一歩前に出て) 305 号室。ドアを開けるぞ。

ボタンとドアの開く音。アルマが更にきつく秦の腕に抱きつく。その表情はとても不安そうだ。

カシャっというカメラのシャッター音。フラッシュが焚かれる。

立っていた滝野が手にカメラを抱えて微笑んでいる。

滝野 ナイス・ショット！

アルマ （秦を突き飛ばして、滝野の元に駆け寄り、その腕に巻き付く）

滝野 秦教授。最高の表情でしたよ。

秦 これは……？

滝野 金になびかない。脅しにも通じない。度重なる嫌がらせにも頑として対抗する。本当にかたくなな方だ。だからこうするしかなかった。大学のセクシャルハラスメントの窓口には彼女の証言とともに既に情報は流してありますので、速やかに調査委員会が開催されるでしょう。まあ、（カメラを振って）固い証拠もありますし。すでに外堀は完全に埋っています。もはや身動きの取りようはないでしょうね、セクハラ教授。いや、懲罰委員会で決定が下れば、元教授となりますが……。

秦 滝野。はめられたのか？ 俺は……

アルマ あら、「身から出た錆」じゃない、秦先生。（満面の笑みを浮かべる）

秦 だよなぁ……。

秦はうつむき、後退し、退場する。

徐々に照明が元に戻る。

滝野 とにかく教育者の処理は簡単だ。たったこれだけで、教育界からも学会からも無視される存在となる。積み重ねてきた信用も、人望も、そして熱狂的な人気も一瞬のうちに崩れて消える。あっけないもんだ。

タミエル あんたは、そんな活きのいい反〈ネフィリム〉主義者を今までずいぶんと罠にかけてきた。

滝野 まあ、それが俺の仕事だからな。

アルマ でも、これからは罠にかけるのではなく、アルプのもとに連れて行くっていうやり方もありでしょ？

タミエル 金に転ばず、脅しにも屈しない筋金入りの反〈ネフィリム〉主義者の信念に燃えた強い意志、簡単に折れない心——それこそアルプの大好物。その満ち溢れるエネルギーでアルプのお腹は満たされる。

アルマ そして、アルプに生気を吸い取られた人間はカス同然になっちゃう。熱意も希望も失ってね……。

タミエル 分かるかな。反〈ネフィリム〉運動の牽引車を失速させるのに、知恵を絞って罠を仕掛ける必要なんてない。ただ、アルプの前に連れて行くだけでいい。

アルマ 一挙両得だよ！

滝野 おい、待て。一挙両得ってなんだよ！

タミエル 理解しろよ。汚染水からのウラヌスの分離濃縮も、〈ネフィリム〉再稼働の推進も同時に進めることが出来るだろ。リストに載った要注意人物を拉致し、連れて行くだけで……。

滝野 だがな。拉致は危険が大きい。現行犯で見つかった場合、逃げの打ちようが……

アルマ 怯えてるわけ？

滝野 怯えている訳じゃねえ。だが、オヤジに相談しないと……。

タミエル 石間には、私から話す。彼、私の言うことなら、よく聞くんだ……。

アルマ それに……。私、もう始めちゃってるからなあ……。

滝野 始めてる……って？

アルマ 拉致に決まってるじゃん。私はアルプの給仕係。メイドカフェ気分で、美味しくなる魔法をかけちゃったりして。アルプは喜んだよ。美味しいって。凄く美味しいって！

滝野 ……ホントか、それ？

アルマ アルプは美食家なの。その上、おねだりも結構強引。「おっさんはもう喰い飽きた。今度は若い女がいい【←山の精霊風の口まね】」だって……。

楽しそうに満面の笑みを浮かべるアルマ。
その笑顔を残しつつ、ゆっくりと暗転していく舞台。

4. おっさん達が追跡するターゲットの名は〈パピヨン〉

舞台の上に壬生匡子。片手に資料ファイル、もう一方の手にスマホを持って立っている。

新聞を手に但峰大介が登場する。

但峰 一週間前に行方不明になったと報じられた安西勝俊(あんざい・かつとし)衆議院議員が二日前に発見されていたようです。

壬生 死体で？

但峰 いえ、生きています。でも、どこで発見されたと思います？

壬生 〈禁制地区〉でしょ。

但峰 そう、立ち入り禁止区域の近傍です。って、壬生先生。もうご存じだったんですか？ 知らないフリして、カマかけるなんて非道いなあ。

壬生 スーツは埃まみれで、立ち入り禁止区域内を数日間彷徨っていたのではないかっていう話ね。発見時の安西議員は別人年か見えなかったらしいわね。

但峰 発見者自身が安西議員とは認識していなかったようですし。あれだけテレビに出て、知名度も好感度も高い政治家の一人なのに……。

壬生 発見者の弁を借りるなら、「生きる希望どころか、何もかも失った木偶(でく)人形のようなだった」。

大念楓も現れる。

大念 日本民生党の安西議員って言えばエネルギーで、アブラギッシュ、絞ると油が染み出してきそうな政治家だったよね。かなりの論客で、国会内でもそれなりのプレゼンスを確立し、与党に煙たがられた……。

但峰 関東電力による「ブルートサーマル計画に関する公開シンポジウム」、「住民の声を聞く会」は巧妙に隠された「ヤラセ」であると、国会質問でぶち上げた張本人。参加者の半数が電力会社社員か、その関係者。〈ネフィリム〉再稼働に関して、計画賛成の意見を表明するよう言い含められていたことをすっぱ抜いた。

大念 それがどうして？ 魂が抜けたように人が変わってるなんて、なんかおかしくない？

壬生 相当に怖い思いをしたとか？ 私たちには想像も付かないぐらいの恐怖体験。つやつやの黒髪が白髪に変わっていたって噂話を聞いたわ。

大念 白髪に？ たった、五日間程度で？

但峰 安西議員はいつも白髪を染めていたんだけど、その時に限って染め忘れてた……(二人に睨まれて)とかって可能性は、毛ほどもありませんね。

大念 でも、なんで、一人で立ち入り禁止区域なんかに入り込んだんだろう？

壬生 自らの意志ではなく、拉致された……とか。

大念 誰に？ 敵対する与党の政治家に？ それとも関東電力に？

但峰 その影の実働部隊によって、ってことですか？ つまり、石間興産……。

大念 大介君さあ。石間興産なんて言わずに、はっきり石間組って言えばいいのに。

壬生 そうなんだけど……。ただね、石間のやり口じゃないような気もするんだよね。つまり、芸風が異なる。

但峰 芸風って……。

壬生 確かにヤツらはなんでもやるわ。札幌で頬を撫でるような懐柔、かと思えば、脅迫によって精神的に追いつめることもある。果ては、罠をかけて社会的に完全に抹殺する。目的のためには手段を選ばない連中よ。でも、拉致なんて強引なやり方を執ったことはない。石間の戦略は頭脳プレイ。おそらく、それが滝野雅哉の芸風なんだろう

但峰 滝野って、石間興産の総務部長の？

大念 っていうか、石間組の若頭だよ。

壬生 滝野が参謀だ。ほんと頭のいい男だよ。見習いたいもんだねえ。

但峰 見習うなんて……先生、何を馬鹿なことを言い出すんですか！

壬生 (手にしたスマホを短剣ように構えて、但峰に向け) 大介君さあ。君も一端(いっぱし)の悪徳弁護士になって、強請(ゆすり)紛いの裏技で口に糊していきたいのなら、もう少しちゃんと勉強しなきゃ。滝野は結構やり手だよ。

大念 あ、ボス弁自ら「悪徳……」と明言するのはどうかと……

壬生 あら、だって、そうじゃない。私は悪徳弁護士よ。それ以外の何ものでもない。でしょ、楓ちゃん？

大念 屈託のない笑顔で「いいえ」と否定できるかといえば、そこんところはちょっと微妙ですが……。

但峰 いえ。壬生先生は確かに、詐欺紛いの着手金横領、利益相反や守秘義務違反など弁護士にあるまじき倫理違反を犯しまくりではありますが、確固たる信念に基づき、正義を貫いているのだと信じ切っております。

壬生 大介君。それ、褒めてんの？ それとも、貶してんの？ まあ、とにかくさ、拉致みたいなパワープレイは滝野らしくないんだなあ。とは言うものの……真実を知るためには、確証を得る必要がある。

大念 確証？

但皆 それを得るための布石は、既に打ってある？

壬生 (頷いて) まあね。ただ急ぐ必要があるのは確かね。

大念 急ぐ？

壬生 実は、一昨日、似たような事件が起きているの。

大念 似たような事件？

壬生 事件と言うより、神隠しかな。東日本医科大学の宮岡教授が忽然と姿を消した。

但峰 宮岡先生って、あの「〈ネフィリム〉事故の全貌を知る医師」と言われる宮岡先生のことですか？ 事故処理に当たった作業員の死亡事故が「ウラヌス」の内部被曝と関係するとした資料が新聞社にすっぱ抜かれた……。

壬生 すっぱ抜かれたわけではなく、本人からのリーク。膨大な資料をまとめて、近々公表予定だったとの噂。

大念 その宮岡先生が行方知れずに……。

壬生 やがてその宮岡教授が立ち入り禁止地区近くでやがて発見されたりして。その瞳に生

気はなく、見る影もなくやつれ、髪の毛もすべて白髪に変わっていた……とか。

但峰 連続拉致事件ですか！ 発見された被害者はすべて白髪と化していた……でも、宮岡先生はもともと若白髪で、素敵なロマンズグレーですけど……。

唐突に壬生の手の中のスマホが着信音を鳴らす。スマホを直ぐさま耳に当てる壬生。携帯を手にして、舞台後方に現れる秦。防塵マスクを付けている。

【秦、棚橋、樋村の汚染地帯での登場シーンは「録音」で行う（マスク着用のため発語が困難であるからだ）。折角の録音なので、それを生かさない手はない。】

壬生 連絡、待ってたわ。

秦 防塵マスク息苦しくて最悪な気分だが、どうにか追いつめたっぽい。

大念 ん？ 誰から？

壬生 （スマホを耳から外し）天使達。

大念 おっちゃん達からの連絡？

但峰 で、天使達は今どこに？

壬生 〈禁制地区〉。立ち入り禁止区域。

大念 〈ネフィリム〉の汚染地帯!?

壬生 その、ど真ん中。ホットスポットよ。

但峰 ど真ん中まで？ どうやってそんな奥深くまで分け入ったわけ？ 車使ったら、すぐばれちゃうでしょ！

壬生 当然、徒歩じゃない？ もしかしたら、警察に見つからないように匍匐前進かも……。

但峰 そんなわけないでしょ……。っていうより、当然、無許可で侵入したわけですよね？

壬生 （頷く）

大念 でも、どうして、汚染地帯に？

壬生 ターゲット〈パピヨン〉は2日前に汚染地帯に消え、目下そこに潜伏中……。

但・大 （膝を打って）コードネーム〈パピヨン〉！

大念 〈パピヨン〉って、東日本医科大の宮岡先生！

壬生 ぶー。残念、ハズレ、見当違いもいいところよ。そんな普通の人間ではない。

但峰 どういうことですか？ 普通の人間ではないって……。じゃあ、〈パピヨン〉って何？ まさか、化け物？

但峰の顔が塩でもなめたかのように歪む。大念の表情もそれと同じになっている。

秦 樋村。ターゲット〈パピヨン〉の位置は？

舞台後方に現れる樋村。彼もまた防塵マスクで顔を覆っている。

樋村 あの廃屋の中。多分な……。

秦 多分？ 〈天空の目〉で上空から地上を見下ろしてるんだろ？

樋村 確かに見えている。見えてはいるが、いつも言っているように、残念ながら解像度が悪

いんだ。ただ、建物の周囲に〈パピヨン〉の姿はない。

舞台後方に駆け込んでくる一人の男――棚橋である。大仰な防塵（防毒？）マスクをかぶっている。

棚橋 （息を切らしている）今、廃屋の裏手に着いた。は一つ、走りすぎて息が上がった。マスク外してえ……。

秦 そうだな、確かに息苦しすぎる。外そう……って、ダメダメ。このあたりは依然魔力が残存していて、時間あたりの魔力当量が高い。マスクは外さない方がいい。いかにあの〈大洪水〉を生き抜いた俺たち天使といえど……。

樋村 粒子を体内に取り込んだら、内臓を内側から焼き尽くされかねないぜ。

棚橋 確かに……。それはそうと、このアフレコっていうのは、楽だな。

秦 アフレコ？

棚橋 これこれ、今やってる、これ。

樋村 事前に録音したんだから「アフレコ（アフター・レコーディングの略）」じゃなくて「プレレコ」じゃねーの？

棚橋 名称はともかく、台詞を憶えなくていいのが楽ちんだ。次回もこれやろう。

秦 次回って？

大念 アフレコどうのこうのは、置いて……今、おっちゃん達がいるのは……。

但峰 立ち入り禁止区域のなかでも、かなり重度の汚染地帯ってこと？

壬生 そう。〈大洪水〉によってメルトダウンを起こした〈ネフィリム〉の北西部、その瓦礫の中に彼らはいる。

秦 俺たちは三方向から、搜索範囲を狭めてきた。

磯村 脇をすり抜けられた形跡はない。つまり……。

秦 〈パピヨン〉はあの廃屋の中にいる。

壬生 彼らのミッションは汚染地帯に潜伏しているターゲット〈パピヨン〉の発見と捕獲。

大念 発見と捕獲って？ あのおっちゃん達で大丈夫？

壬生 言ったでしょ、彼らは狩りのプロ。

但峰 彼らは、墮天使〈グリゴリ〉を殲滅するために送り込まれた天使って想定だったよね。

壬生 想定じゃない。それが真実。

大念 （独りごちて）でも、その話、何度聞いても素直に納得出来ないんだよなあ。だって、見てくれ、ただのおっさんじゃん……。

壬生 （大念の言葉を無視して）だから、彼らならターゲット〈パピヨン〉を生け捕りにすることが出来る。

但峰 ところでパピヨンって……なんだったつけ？

壬生 フランス語で〈蝶〉の意味。優雅な名前だけど、〈パピヨン〉を侮っちゃいけない。とても危険なヤツ。

秦 （スマホに）匡子。今から〈パピヨン〉が身を隠している廃屋の中に入る。

壬生 分かってるわね。〈パピヨン〉を……。

秦 生け捕りにするんだろ？ 作戦が完了したら改めて連絡する。（電話を切る）棚橋？ お

前は裏から侵入して2階へ登れ。樋村と俺は1階の左右両翼から侵入する。
樋村 俺はヤツのことをよく知っている。〈パピヨン〉の無慈悲で獰猛な性格を……。
秦 それにヤツは追いつめられていて、その上、飢えている
棚橋 運が悪きゃ、のど笛を食いちぎられる、てか？（銃を引き抜き）いざとなったら……。
樋村 生きたまま捕獲するんだろ？ ヤツには使い道がある。
秦 ヤツに対して銃は無力だ。敏捷な動きですべての弾丸はかわされてしまうだろ。
棚橋 だな。（銃をしまい）今から侵入する。
樋村 棚橋。俺たちの侵入はヤツにばれていると思って行動しろ。
棚橋 分かってるさ。ヤツは殊の外……。
秦 鼻が利く……。

叩き付けるように響き渡る Now/Fireflight。

舞台後方の三人（おっちゃん達）が、めちゃめちゃ格好良く退場する。

但峰 〈パピヨン〉——〈蝶〉の異名を持つだけに、超がつくほど危険なターゲットか。
壬生 まあ最悪ね。彼らといえど、手こずるだろうね。
大念 〈パピヨン〉って、なんで〈パピヨン〉って呼ばれるわけ？ あっ！ まさか、そいつの筋骨隆々の胸のど真ん中に蝶の入れ墨でもあるとか？
壬生 そりゃ、スティーブ・マックイーン主演映画の『パピヨン（1973）』だ。脱出不可能と言われた南米ギアナのデビルズ島の監獄から脱獄した脱獄囚——つーか、古い映画知ってるね、楓ちゃん……。
大念 じゃあ、なんで最悪の危険なヤツが、〈パピヨン〉なんて呼ばれるわけ？
壬生 多分、見た目だろう。
但峰 見た目？
壬生 まさに見た目のイメージだ。〈蝶〉を彷彿とするイメージ……。
大念 まさか……腕の代わりに蛾のような大きな羽根を持つ怪物!?
但峰 なんだっけそれ…… あっ！
但・大 （指さし合って）モスマン！
大念 ウェストバージニア州で目撃された未確認動物、UMA だ。身長は約 2m。時速 160km で空を飛ぶって……。
但峰 死者 46 人を出したオハイオ州シルバー・ブリッジの大規模崩落事故も、そのモスマンが引き起こしたと、月刊『ムー』で呼んだことがある。天使がこうやって実在してる世の中なんだ。モスマンがその敵として現れたって、なんの不思議もない。
大念 （但峰の顔を見て何度も頷いていたが、急に壬生に視線を向け）不思議ないどころか、順当な流れだよ、それ。（壬生に）おっちゃん達が立ち向かっているターゲットって……。
但峰 まさか……。
壬生 ここに〈パピヨン〉の写真があるんだけど、見る勇氣ある？（ファイルから A4 大の紙を取りだし、差し出す）
大念 うん。（手を出しそうになるが、引っ込めて）やっぱりいい。夢に出て来そうだから……でも、その恐怖心に好奇心が打ち勝ってしまいそうなんだなあ、これがまた……。

じたばたしている大念を尻目に、壬生から写真を受け取って凝視する但峰。

但峰　こ、これは……。楓ちゃん……。

但峰、驚愕の表情を浮かべたまま、写真を大念にも見せる。
当然、大念も驚愕の表情となる。

但・大　（驚愕の表情のまま、視線を上げ）壬生先生。これは……。

壬生　まさに〈パピヨン〉だろ？ 耳の形が……。

但・大　つーか、これ、ワンコですけど！

くると写真を裏返し、表を客席に見せる。
写っているのは、愛くるしい小型犬(↓)である。



パピヨン（見かけより気が強くてわがまま）：

フランス語の蝶（パピヨン）の名の通り、大きくて美しい飾り毛がついた耳は、羽を広げた蝶のように優雅で物静かな印象を与えます。しかし実際は、活発にはしゃぎ回る騒々しいくらい元気な犬です。大変賢く精神的にナイーブで、それが魅力のひとつです。反面とても向こうっ気が強く、甘やかして育ててしまうと、わがままでやたら攻撃的になることもありますから注意が必要です。

『ペットいっぱい・犬種図鑑』より

大念　その上、普通に可愛いし……

但峰　どこが〈危険なターゲット〉なんですか！

壬生　（正面を凝視し、朗々と）活発にはしゃぎ回る元気な犬ですが、反面とても向こうっ気が強く、甘やかして育ててしまうと、やたら攻撃的になることもありますから注意が必要です。『ペットいっぱい・わんこ図鑑』より！

壬生の台詞言いきりで唐突に暗転。高鳴る音響！

暗闇の中で、狂ったように鳴き叫ぶ小型犬。

それに負けじと棚橋の大絶叫が響き渡る。「〈パピヨン〉を見つけた！ っていうか、俺が見つかったのか？ 秦！ 樋村！ 二階の奥の部屋だ！ 早く！ こら、やめろ！ あっ、痛てえ！ ケツ噛まれた！ ケツを噛まれたあ……」

秦の叫び。「グッジョブ、棚橋。そのままケツを噛ませとけ」
棚橋「なに言ってる！ 俺は疑似餌(ルアー)じゃねえぞ！」
秦「樋村、網持って右から回り込め！」
パピヨン「キャンキャン。ぐるうるる……」
樋村が叫ぶ。「痛え！ 爪で顔面をえぐられた！ 気をつけろ。ヤツは目を狙ってくる！」
秦「さすが、超がつくほど危険なターゲット！」
棚橋「ケツが痛てえ！ ケツがあ……」
小型犬の鳴き声が(デジタル処理で)、棚橋の泣き声が(デジタル処理風のリアル音声で)、リバーブを伴ってフェードアウトしていく。

ゆっくりと明かりがつくと、舞台の上にはおっさん3人と壬生法律事務所の三人が立っている。

秦の手にはペット・キャリー用のバスケット。キャンキャンという子犬の鳴き声。中に入っているのはどうやら犬のぬいぐるみだが、秦が鳴き声に合わせて、カゴを器用に動かしているのが微笑ましい。〈芝居の嘘〉として、温かい目で見てやって頂きたい。
おっさん三人とも手や顔に大きな絆創膏が張られまくっている。ケツが痛いのか、不自然に腰を折り曲げている棚橋。

壬生 満身創痍ね。文字通り……。
但峰 マジで大変だったみたいですね。
秦 凶暴な野獣相手に、防塵マスクによる酸欠とも戦いながらの1時間。
樋村 真剣勝負の鬼ごっこはまさに死闘と呼ぶに相応しかった。結果、顔面と手のひっかき傷、無数……。
棚橋 (苦痛に表情を歪め)そして、臀部の噛み傷、1。
壬生 本当にご苦労様でした。まあ、座って……。
大念 っ、棚橋さんはさすがに座れないでしょう。
棚橋 (力なく笑い、大念に向けて親指を立てる)
壬生 (どっかりと腰を下ろして)まあ、いいじゃない。天使なんだから。傷の修復なんてあつという間でしょ。兎にも角にも、〈パピヨン〉の捕獲成功、おめでとう。いえ、まずは〈パピヨン〉が無傷で確保できたことを喜ぶべきかしらね。
棚橋 代わりにみんな傷だらけ。おまけに俺がケツ噛まれたけどな。
壬生 それで良かったのよ。
棚橋 よかった、だと？
壬生 ええ。逆にあなたが〈パピヨン〉のケツに齧り付いたのだとしたら、動物愛護法に則り、告発することになっちゃうでしょ？
秦 動物愛護法？
但峰 平成25年6月12日改正の法律。壬生先生の言うとおり、もし棚橋さんが〈パピヨン〉の臀部に齧り付いたとしたら、その行為は、第六章、罰則、第四十四条に該当する可能性がありますね。愛護動物をみだりに殺し、又は傷つけた者は、二年以下の懲役又は二百万円以下の罰金に処する……。

樋村 おいおい、犬を噛んだら、二年以下の懲役って……。

秦 なんつー法律だ？

大念 動物の愛護及び管理に関する法律。

秦 (苦笑いで)だから正式法律名を尋ねた訳じゃないんだが……。

但峰 動物の虐待の防止、適正な取扱い、健康の保持等、動物の愛護に関する事項を定めて国民の間に動物を愛護する気風を招来し、生命尊重、友愛及び平和の情操の涵養(かんよう)に資するとともに、人と動物の共生する社会の実現を図ることを目的とした法律。

樋村 なに言ってるんだ……つーか、何語喋ってるんだ、こいつ？

壬生 法律用語。私だって弁護士の端くれですから、法に従い告発するしか……。

棚橋 ちょい待ち。お前が教唆したんだから、お前自身が告発されるんじゃないのか？

壬生 だからじゃない。自分で自分を告発する。そんな自家中毒が起きそうな最悪の事態を回避できてよかったって胸を撫で下ろしてるんじゃない。

秦 ……なんだ、それ？

樋村 つうか、実際に虐待されたのは俺たちの方だぜ。

棚橋 そうだよ。おっさん愛護法っていうのはないのか？ おっさんをみだりに傷つけた犬は、二年以下の懲役又は二百万円以下の罰金に処する、とか……。なあ？(樋村に同意を求める)

大念 残念ですが、犬は法律対象外です。

棚橋 おっさんの心をみだりに傷つける君は処罰対象になるかもね。

壬生 そうかもね。まあ、おっさん愛護法が国会を通過したら、ってことだけど。さて、冗談はさておき……。

樋村 冗談って？ どっからどこまでが？

壬生 (樋村の質問に答えることなく)まあ、結局。これで、作戦を第二段階に進めることが出来る。

秦 (頷いて)まあ、紆余曲折はあったけどな。

但峰 ねえ、作戦って？

壬生 おや？ 説明してなかったっけ？

大念 何も聞いていないけど……。

秦 では、ここでクエスチョン。この犬の持ち主は……。

壬生 だーれだ？

但・大 はて？

棚橋 三択です。1. ハイセンスなママ雑誌として評判の『Hug Mug(ハグマグ)』の人気読者モデル、神奈川県宮前区にお住まいの山田遥さんは大の犬好き。今日も天気がいいので、宮前平の住宅街をパピヨンちゃんと楽しくお散歩。

大念 山田遥さんって、誰？

樋村 2. 創業元禄八年。箱根湯本の老舗旅館、水琴楼(すいきんろう)の名物女将の娘。箱根町立湯本小学校3年2組の黒板係、前田緑輝(まえだ・さふあいあ)ちゃん。黒板消しを綺麗に掃除しながらも、パピヨンちゃんのことが気になって仕方ないみたい。

但峰 「さふあいあ」って名前、(きらきらネーム)過ぎだろ！ つーか、漢字でどう書くの、そ

れ？

秦 (早口で) 3. 石間組組長、石間龍雄。(そして、ゆっくりとタメを置き) シンキング・タイム！

珍妙な音楽を口ずさみながら、おっさん三人が軽快に踊りだそうとしたその刹那……。

但・大 3番、石間龍雄！

三人 (さも残念そうに) 正解……。

棚橋 折角、これから三人のハイパーダンスが炸裂するところだったのに……。

大念 おっちゃんの珍妙なダンスなんて見たくないから……。

但峰 (腕組みして) うんうん……って、ええええーっ、石間龍雄？ 石間組の組長の？

壬生 その犬は石間龍雄の愛犬パピヨン。どこへ行くとときも一緒。自宅でも、組み事務所でも、ご自慢のメルセデスベンツ S クラスの後部座席に座る時にも、例外なく……。

大念 そんな大切なパピヨンちゃんが、なんで汚染地帯に？

壬生 2日前、石間は事故のあった〈ネフィリム〉に赴いたの。関東電力と日本ネフィリム開発の重役達の視察に同行するって体(てい)でね。視察は単なる名目、かなりきわどい話し合いがそこで行われるはずだった。

但峰 でも、その時に、連れて行ったパピヨンが石間の手をするりと抜け……。

大念 って、ちょっと待って、偶然にそんなことが起きたわけ？

棚橋 ご明察。偶然なんかじゃない。意図的な戦略だ。パピヨンをおびき寄せたのはこれだ。(と、ポケットから、ビーフジャーキーをつまみ出して示す)

秦 ビーフジャーキー。

樋村 パピヨンの大好物。

棚橋 (自慢気に) その上、高純度、最高級マタタビ・パウダーがこれでもか、ってぐらい塗りたくられているのだ。

但峰 (膝を打って) マタタビか！ それなら、500m 先にあったとしても、我を忘れてネコまっしぐらだ！

大念 あ。パピヨンちゃんは犬だから。ネコじゃないから……。 (但峰の肩をばんばん叩いて注意を促すのだが、その言葉は誰にも届いていないようだ)

棚橋 贅沢に、たっぷり振りかけたぜ。亀田製菓のハッピーターン、ハッピーパウダー250%ばりに。

但峰 (ヨダレを垂らさんばかりに) 「てんこ盛りのパウダー」が扇情的過ぎたハッピーパウダー250%！ あっ、ヨダレ出て来た……。

大念 だからさ、犬には効力ないだろ、マタタビ……って、誰か聞いている？ (もはや、誰も聞いていない)

秦 俺たちは首尾良く、石間の手からネフィリムの構内にパピヨンを逃がすことに成功し……。

樋村 首尾良く、施設外までおびき寄せ……。

棚橋 (楽しげに) そして、運悪く、逃がしてしまった。

大念 詰めが甘すぎ。ダメじゃん……。

秦　ちっちちっ(立てた人差し指を横に振り、舌を鳴らす——って、なんだこの仕草?)若いなあ、君は。いいか? 都市対抗野球にそれがあるように……。

樋村　将棋の竜王戦にそれがあるように……。

棚橋　柔道の世界選手権にそれがあるように……。

三人　人生にも「敗者復活戦」はある。

但峰　簡単に言えば「自分の失敗をリカバリーしました」ってこと?

秦　そんなに簡単な言葉で表しては味気ない。敢えてこう言わせてもらおう。

三人　負けられない戦いが、そこにはあった、と。

壬生　本当に話が前に進まないねえ。そんなオヤジの思い入れなんかどうでもいいからさ、早く済ましてしまいましょ。

いつの間に取り出したのか、壬生の右手には太い注射器。

但峰　壬生先生。何する気ですか?

壬生　この注射器の中には生理食塩水とともに、〈アルゴス〉の欠片が入っている。

大念　アルゴスって?

壬生　ギリシャ神話では〈百の目を持つ巨人〉として描かれているわね。その百の目は交代で眠るので、監視に最適。ゼウスの浮気を監視するために、妻のヘラがアルゴスを利用したの。まあ、ゼウスの命で駆け付けたヘルメスによって八つ裂きにされてしまったけどね……。

大念　犬も食わない熟年夫婦の痴話げんかの犠牲に? とほほ……そりゃ、アルゴスも浮かばれないわ。

壬生　そう。だから、ヘルメスの剣で切り刻まれ、砂粒ほどに小さくなってしまっても、〈アルゴス〉は監視を続けるの。それはまさに業(ごう)ね。かくも深き業……。 (樋村に) ねえ、克爾?

樋村　なんだ?

壬生　あなたの千里眼能力〈天空の目〉は、当然のように、この〈アルゴス〉に共鳴する。

樋村　おい、待てよ。それを通して、世界が見えるて一のか?

壬生　いえ。アルゴスの百の目はすべてヘルメスの剣の切っ先でことごとく潰されてしまった。だからもう、何も見えない。

棚橋　じゃあ、ダメじゃん……。

壬生　でも、耳は……アルゴスの耳はまだ生きている。(樋村に) この注射器に意識を集中して。(注射器に口づけでもするように唇を寄せて、小さな声で呟く)……聞こえる?

樋村　(集中している) 聞こえる。……っていうか、聞こえるし。

壬生　(にっこり微笑み) 繋がったようね。

但峰　すげえ……魔法だ。

大念　マジで? こいつら口裏合わせてるだけじゃ……。

但峰　先生をこいつら呼ばわりするな。魔法を目の当たりにしたら、疑いを持たずに驚嘆すること。素直が一番だ。

大念　私は素直に、まっすぐな心で、疑ってるんだけどな。つーか、お前、先生が言うことには

素直すぎる。

壬生 いい。今からパピヨンのお腹の皮に〈アルゴス〉を打ち込む。〈アルゴス〉が盗聴器の役割をして、逐一、石間龍雄の会話を克爾に伝えてくれるってわけ。

但峰 パピヨンは片時も離れず石間のそばにいる。まさに完璧な盗聴器(ワイアタップ)だ。

壬生 大介君。脱(ネフィリム)運動に関係する重要人物の失踪。その裏には実働部隊である石間組がおそらく関係している。誰だってそう思う。でも、私たちが欲しているのは物証よ。このパピヨンがそれを教えてくれるはずなんだ。

但峰 凄いです。格好良すぎです。壬生先生……。 (ラヴって感じの視線を向けている)

壬生 博。パピヨンをこっちに。すぐに済ませちゃうから……。

秦 ああ。(バスケットを壬生の方に向ける)

棚橋 おいおい、ぶすっと行っちゃうのか、それ？ 麻酔とかは？

壬生 注射打つのに麻酔必要か？ 必要なのは消毒だけだ。

棚橋 動物愛護法的にはどうなの、大介君？

但峰 いいんじゃないすかね。壬生先生ですから、当然の如く、何となくクリア。

棚橋 何となくクリア……って、お前。法的に、もうすこし客観的に判断せーよ。

壬生 パピヨンちゃん。ちょっとちくつとしますよー。

と、注射の泡を抜こうと、注射筒を指で弾く。舞台袖で、飛び上がる樋村。

樋村 うわあ！ 鼓膜、破れるかと……。急に指で弾くな。ゴーンってなるだろ。

壬生 耳の中でカルロス・ゴーンが？

樋村 カルロス・ゴーンじゃねえ。日産立て直そうとも、これっぽっちも思っちゃいねーし……。つーか、急に叩いたらびくくらこくだろうが！

壬生 克爾。とにかく、能力、コントロールするの。ちゃんとね。

樋村 目下、まさにその練習中なんだからさ……。試用期間ぐらいは優しくしてくれよ。

壬生 OK。じゃあ、行くよ。(注射筒を指で弾く)

樋村 セーフ！ 今のは上手くかわせたぜ。

壬生 当たり前だろ、合図送ったんだから(と、注射筒を指で弾く)

樋村 うわあ！ ゴーンって……。 (泣きそうになって)不意打ちは卑怯だろ……。

壬生 じゃあ、もう一回！ (注射筒を指で弾く)

樋村 あぶねー。今の、首の皮一枚のところで、セーフ。

壬生 こなくそ。じゃあ、ブラストビート！ (狂ったように注射筒を叩く)

樋村 うわあ！ なにさらしとんじゃあ、われえ！

大念 だいじょうぶかなあ。この魔法……つーか、この人達。

大念の心配そうな表情を残しつつ舞台は急速に暗転。壬生以外の全員が退場する。
あっ、そうそう、秦は忘れずに壬生にバスケットを渡してから退場してね。
間髪入れずに、次のシーンが始まるぜ、マジで。

5. おっさん達が盗聴する相手も同じくおっさん達だった

暗転の中に、猫なで声の男の声。

「パピヨンちゃん…… パパは心配で、心配で、心配しすぎて、心肺停止になっちゃうところだったよ」

暗転中にもかかわらず、うまいことを言うこの男は、石間興産・代表取締役の石間龍雄（いしま・たつお）である。いや、友誠会石間組の組長と紹介した方が分かりやすいか。

舞台がゆっくりと明転する。

前シーンからの引き続きで、バスケットを抱えた壬生が舞台中央に立っている。そこに駆け寄って来る石間がバスケットを大事そうに受け取る。

舞台袖に棒立ちで男が立っている。滝野だ。

石間 パピヨンちゃん。ごめんね。寂くさせちゃって……。

バスケットを空け、パピヨンを優しく抱き上げる。嬉しそうな犬の鳴き声。当然のことだが、リアルな犬（パピヨン）を舞台に登場させることは出来ない。犬が演出家の意図を理解してくれるような気はしないし、予想外の事態が巻き起こる可能性が大きいからだ。そんなことに臆せず、やってみたい気もする……のだが、如何せんパピヨンは値の張る犬だ。「パピヨンを買うよりも、新しい短焦点プロジェクタを買うべきだ」そんな、大人の判断で、些か残念ではあるが、パピヨンは縫いぐるみだ。芝居の約束事だが、照れることなく、そこは上手く演技してくれ。頼む。

石間 （頬すりしたり、キスしたりしつつ）2 日間もひとりぼっちで大変だったでしょ。

滝野 オヤジ。頬すりは、ちょっと。パピヨンちゃんは汚染地帯に……。

壬生 それは大丈夫。ホールボディカウンターでの測定も正常値を示したし、体内へのパーティクル——ネフィリム粒子——の取り込みの可能性もない。まあ、ラッキーだった、ってことだろうね。

石間 （更に激しく頬ずって）だって、パピヨンちゃん。よかったねえ！ はい。好物のビーフジャーキー。（と、ポケットからビーフジャーキーを取り出し、縫いぐるみの顔の前でこれ見よがしに振ってみせる）あれあれ、お腹が空いていないのかなあ？ じゃあ、じゃあ、パパが食べちゃうぞ！（と、前歯でコリコリとビーフジャーキーを食べ始める）

滝野 すみません。姉（あね）さん。きちんとした挨拶もせずに。オヤジはパピヨンにぞっこんで、ついこうなっちゃう。オヤジにとってパピヨンは、まさに目に入れても痛くない……。

石間 こら、滝野。（急にヤクザの地金が見えちゃった）さすがに目に入れたら痛いだろ。それどころか、入らないだろ。どうやってパピヨンちゃんを目に入れられるんだ！

滝野 （いたって真面目に）だから、比喻です。

石間 （きょとんとして）ひゆ？ 下剤の代わりに飲む油か？

滝野 （いたって真面目に）それはくひまし油）。のっけからかなりひねってきましたね。

石間 ひまし油は効くぞ、滝野。ぐるぐるぴーで、宿便ごとごっそり出て、げっそりだぞ。

滝野 ひまし油、関係ないから。そんなことより……。(壬生を手で示す)
石間 おお、壬生先生。失礼した。パピヨンちゃんに会えた喜びのあまり……。許してくれ。
壬生 (にっこり笑って) ええ。
石間 でも、こんなに早く見つけてくれるとはなあ。さすが壬生先生だ。
壬生 しがない弁護士事務所ですが、それなりの調査員を抱えていますので……。
石間 それにしても、視察の最中に、それも立ち入り禁止地帯まで逃げていたなんてなあ……。
<ネフィリム>の施設の中、関東電力の職員総出で探し回ったところで見つからなかった
はずだ。とにかく、ありがとう。心から礼を言う。パピヨンちゃんもお礼なさい。(縫いぐ
るみを壬生に向け) うん。ありがとう、きゃんきゃん……。 (鋭く叫ぶ) おい、滝野！

滝野が壬生に近づき、胸の内ポケットから分厚い封筒を取り出し、手渡す。

石間 心ばかりのお礼だ。(と言うが早いか、パピヨンちゃんとの遊びに夢中になってしまう)
壬生 (封筒の中を確かめて) ほお……。 (と、しまい込もうとするが、もう一度中身を確認して)
いいの、こんなに？
滝野 心ばかりのお礼だ。
石間 (ふと顔を向け) それ、さっき儂が言った。(言うこと言い切ったら、直ぐさまパピヨンちゃ
んだ)
壬生 さすがは石間興産。潤沢な上に気前がいい。関東電力、日本ネフィリム開発、金が唸っ
ている組織が後ろにいるって素敵ね。私もあやかりたいものだわ。
滝野 ……(無言で壬生を見つめている)
壬生 どうしたの？ 私何かあなたを怒らせてしまうことを言った？
滝野 いや。そうじゃない。ひとつ聞いていいか？
壬生 なに？
滝野 パピヨン、見つけ出したのはあいつか？
壬生 あいつ？
滝野 樋村だよ。樋村克爾。あいつには見えないものが見える。魔法だかなんだか知らねえ
が……。なあ、先生のところにいるんだろ？
壬生 あら、見かけによらず耳年増ね。
滝野 樋村がなんで急に「足を洗いてえ」と言いだしたのか俺にはよくわからねえ。でも、退職
願を出したからといって、はいそうですかって、にこやかに送迎パーティー開催するよう
な会社じゃねえんだ、うちの会社は……。
壬生 会社じゃなくて、はっきり組って言ったら？
滝野 「そう簡単に足抜けできると思うな。きちんと筋を通せ」と、樋村に言っとけ。そして、もし
うちの会社にアヤでもつけようとしたら……。
壬生 組長は——いえ、代表はどう思ってるの？ あなたと同じ考え？
滝野 オヤジは樋村に甘いんだ。なんだか分からねえが、戻ってきて欲しがってる。
壬生 でも、あなたは克爾に戻ってきて欲しくはない。あなたは克爾のことを恐れてる……。
滝野 恐れてなんかいない。あいつは単なる殺し屋だ。こそこそ立ち回るしか能がない卑怯者
の殺し屋、だ……。なあ、壬生先生？

壬生 なに？

滝野 樋村だけじゃなく、あんたのそこには、秦もいるんだってな。元教授の……。

壬生 元「准」教授よ。そこんこ間違うと、何故か、あいつは切れる。

滝野 反〈ネフィリム〉運動の牽引車の一人。市民団体にも信奉者が多くいた。まあ、セクハラで首が飛ぶまでの話だがな……。そして、棚橋だ。留置場で看守をやっていた元警官。うだつが上がらないくせに、やけに固いところがある融通の利かないヤツだったが……。

壬生 それが何か？ あんた達と何か関係が？

滝野 当然、関係なんて一切ない。だが、もしかしたら、だ……

壬生 もしかしたら？

滝野 そいつらはみな、うちの組を……なんの根拠もなしに、逆恨みしている可能性もなくはない。

壬生 ……なんの根拠もなしに、ね。（言い切った後、鼻で笑う）

滝野 なあ、壬生先生。気になってしょうがねえんだ。そいつら集めてなにやらかそうとしてんのかって……。

壬生 いらぬ心配だわ。知っての通り、私は悪徳弁護士に過ぎないの。あなたの会社が訴えられたとしたら、どんなに道を逸れた悪行を繰り返していたのだとしても、本気で助けてあげるわ。その時には、当然のごとく、法外な報酬を要求するけどね。

壬生、踵を返し退場しようとする。が、石間が呼び止める。

石間 壬生先生。

壬生 ……。（無言で立ち止まる）

石間 あんたのところに、克爾が出入りしてるんだってな？ 克爾、樋村克爾だよ。

壬生 ……ええ。

石間 あいつに伝えてくれねえか？ たまには事務所に顔出せって。

壬生 ……分かったわ。伝えておく……。

壬生が退場する。

石間 今後ともよろしく頼むぞ、壬生先生。

滝野 オヤジ……。

石間 滝野、お前なに怖い顔してんだ？

滝野 あいつ、なんか企んでるんじゃないかって。

石間 あの弁護士先生が？ （と、一瞬鼻で笑った後、真顔になり）お前もそう思うか？

滝野 ワケありの連中が集まってるんです。あいつのところに……。

石間 漏れ聞いてたよ、さっきの会話。

「どこかで見たことあるだよね、あいつ」舞台袖からタミエルの声がする。

「タミエちゃん……」石間が甘ったるい声を漏らす。舞台袖から現れたタミエルが、座っている石間の肩を後ろから抱きしめる。

タミエル (耳たぶに噛みつきそうにも見えるほど石間の耳元に唇を寄せて、呟く。) ああ、思い出した。

石間 (くすぐったそうに) タミエちゃん。くすぐったいなあ……。

タミエル あいつには一度会ったことがある。

石間 会った？

タミエル ああ。あいつは天使だ。

石間 じゃあ、タミエちゃんの仲間……。

タミエル 仲間じゃない。私たちグリゴリを殺すために送り込まれた天使。殺戮天使だ。

滝野 殺戮天使？

タミエル きっと、そいつに連んでいる連中も、殺戮天使よ。

滝野 お前達、無敵のグリゴリにも天敵ってヤツがあったわけか？

「天敵なんかじゃないよ」舞台袖から声。アルマが駆け込んできて、滝野に抱きつく。

アルマ 最低の連中。中身は空っぽ。詰まっているのは空虚な「使命」だけ。

滝野 使命？

アルマ 私たちを殺すこと。天から授かった使命が、それ。

滝野 じゃあ、アルマや……。

石間 タミエは、ヤツらに殺されるのか？

タミエル どうかなあ。そう簡単じゃないと思うけど。

滝野 当たり前だ、迫ってきたところで振り返りにしてやる。

タミエル 頼もしいねえ、あんたは。しかし、ただ、単に、私たちを殺すために近づいてきた訳じゃなさそうだけど……。

アルマ ヤツらの狙いは〈ネフィリム〉？

タミエル 天界は私たちばかりではなく、〈ネフィリム〉の存在も許していない……。

滝野 〈ネフィリム〉が攻撃対象だったら、完璧に俺たちも殺戮天使の逆側に立っているってことになるだろ。

アルマ そういうことかもね。

滝野 あの弁護士先生は、何か企んでやがるってことだな。……ちょっと待ってくれ。(タミエに) お前、あの悪徳弁護士に連んでいる連中も仲間だと言ったな。ってことは、樋村も殺戮天使ってことか？

石間 馬鹿なこと言うな、克爾がそんなものの訳はないだろ！

滝野 オヤジは甘いんだよ。そして、いつか寝首欠かれることになる……。

石間 お前。俺に向かって何ほざいて(指につい力がこもっちゃったみたい。石間の膝の上の縫いぐるみ、もといパピヨンがギャンと鳴く) あああ、ごめんね、パピヨンちゃん。つい、大声上げちゃったパパを許してね。こら、滝野！ パピヨンちゃんに謝れ！

滝野 ……。

石間 謝れって言ってるんだ！

滝野 すみません。(渋々、犬に向かって頭を下げる)

アルマ (ぽつりと)ヤツらには「愛」がないんだよね。
石間 愛がない？
タミエル そう、殺戮天使に「愛」はない。人を愛する能力が欠如している。
アルマ 中身のないモナカみたいなもの……そうだ！ 殺戮天使をアルプに食べさせてみようか？
滝野 アルプに？ 待てよ、アルマ。エサを与えすぎだろ。
石間 まあ、あんまり頻繁にやらん方がいいな。アルマ、半月でふたりはエサのやり過ぎだろう。
滝野 そうだ。あんなやり方だと、アルプの舌まで肥えて、しまいには收拾が付かなくなる。
アルマ おやまあ、私がアルプの給仕係になってから、どんだけ能率が上がったと思ってるの？
タミエル <ウラヌス>の分離濃縮だけではなく、<プルートー>までが高濃度に濃縮され始めた。これがゲルマンの山の精霊、金属細工のマイスター、アルプの本当の実力。
石間 確かにそうだが……
アルマ 気まぐれなアルプを上機嫌にするためには、最高のエサを与えるしかないの。
タミエル でも、殺戮天使をアルプが喰うかな？
アルマ どうだろう？ 虚ろなモナカのなかに豆粒ほどの「天界からの使命」。それって美味しいのかな。それとも、無味無臭？ ちょっと興味が出て来ちゃったんだけど。
タミエル 殺戮天使なんて、アルプはすぐに吐き出すに決まってる。
アルマ かもねー。
タミエル そして、涙目で、えずきながら、吐き捨てる。「世界不味いもの選手権があつたら、殺戮天使は、ところてん【←自分の不得意な食材を言う】を見事に抑えて、ダントツで優勝だぜ」
石間 タミエ、お前……。
滝野 ところてん【←タミエルの不得意な食材】がそんなに嫌いなのか？
タミエル 和食【←タミエルの不得意な食材が存在するカテゴリー】は軒並みウェルカムなんだけど、ところてん【←タミエルの不得意な食材】はどうも……。つか、あんなヌルツとしたもの【←タミエルの不得意な食材のテクスチャーや風味】喜んで喰うヤツの気が知れない。
アルマ そうなの？

ゆっくりと暗くなっていく舞台。
振り替わりに舞台奥で座り込んでいる樋村をスポットが照らす。
耳に手を当て、集中しているようだ。
そこに棚橋が現れる。

棚橋 (缶コーヒーを樋村に渡し)ブラックだ。調子はどうだ？
樋村 お前のケツの調子はどうなんだ？
棚橋 上々だ。天使は傷の治りが早い。
樋村 俺の方も、上々だ……と、笑顔で答えたいところだが、さすがにきついぞ、これ。感度は良好なんだが……。

棚橋 交代無しで、四六時中、盗聴だもんな。そりゃ、厳しいなんてもんじゃない。心の底から同情するよ。

樋村 同情するなら、役代われ。

棚橋 代われるもんなら、な。でも、残念ながら、俺には〈天空の目〉の能力はない。代われな
いからこそ、心底同情してるんだろ。

樋村 その気持ちだけ受け取っておく。

棚橋 缶コーヒーも受け取ったろうに。で、どうだ？ 何か新しいネタは……。

樋村 石間組の内部にグリゴリがいた。

棚橋 グリゴリ？ どうしてグリゴリだと分かった？

樋村 名前だ。アルマとタミエ。

棚橋 それって……。

樋村 アルマロスとタミエル。一度出会ってるだろ。ヤツらの声は忘れようとしても忘れられな
い。ヤツらの言葉が心に傷を付けた。まるで耳鳴りみたいに、その言葉が頭の中で繰り返し
返される……。

棚橋 アルマロス。護符(タリスマン)の能力を持つグリゴリか……。厄介だな。

樋村 アルマロスは若頭、滝野のイロ。そして、タミエルは……。

棚橋 石間のイロ、か？

樋村 そうだ。

棚橋 甘いハニートラップで石間組を籠絡したヤツらの目的は？

樋村 さあ、それは……。というか、そもそもグリゴリに明確な目的なんてあんのか？ ヤツら
は人間の自由意思をうらやんでいるんだ。そしてそれを手に入れたいと……。

棚橋 つまり、決定は自由意思を謳歌する人間の側に、と？

樋村 人間が望み、そして突き進む意志の流れ。その激流の中でのみ好き勝手にダンスを踊
っている……。それがグリゴリかも知れない。

棚橋 詩人だな。つーか、寝不足で脳に血が行き渡らなくなってるのか？

樋村 その両方だ。グリゴリの最終目的は皆目見当つかねえが、ひとつ気になる情報がある。

棚橋 気になる情報？

樋村 アルプスって聞いたことがあるか？(棚橋がボケそうになるその出鼻を挫き)ペーター、
は「アルプスの少女ハイジ」だ。

棚橋 そう先手打たれたら、ボケるにボケられないだろ。

樋村 多核種除去装置アルプス。メルトダウンした〈ネフィリム〉の怒りを静めるための冷却水。
その除染のために関東電力と富芝が開発した装置だ。

棚橋 〈ウラヌス〉ばかりか〈プルートー〉まで濾し取ることが出来、汚染水の魔法当量は 20 分
の 1 まで減らせるってやつだろ？

樋村 最近では 20 分の 1 どころか 1000 分の 1 まで減らせるらしい。何故、処理機能が格段に向
上したのか？

棚橋 おい、勿体つけずに、教えろよ。

樋村 アルプの力を借りている。

棚橋 アルプ？ ゲルマン神話の山の精霊だったっけ？

樋村 (頷いて)秀でた金属細工の能力を持っている。

棚橋 アルプの力で除染とは考えたな。

樋村 そこだけ見れば、名案に思えるかも知れない。だが、悪い面もふたつある。ひとつ目はアルプのエサが人間の精力であるということ。あいつは氣力を人から吸い取って生きている悪鬼だ。

棚橋 で、アルプのエサとなった人間はどうなる？

樋村 すべてのエネルギーを搾り取られて、「生きる希望どころか、何もかも失った木偶(でく)人形」のようになる。

棚橋 (頷いて)まるで、立ち入り禁止区域の近くで保護された日本民生党の安西……。

樋村 俺もそう考えた。

棚橋 まさか、安西はアルプのエサになったっていうのか？

樋村 消息不明の東日本医科大の宮岡医師も、また……。

棚橋 秦は？

樋村 多分、向こうの部屋だ。

棚橋 秦と匡子達をすぐ呼んでくる。(と、立ち上がり、退場しかけるが)待て。お前、「悪い面もふたつある」って言ってなかったか？

樋村 これは俺の想像に過ぎないんだが……。

棚橋 前置きはいいいから。

樋村 アルプの選別能力が巧みすぎるからだ。ナノレベルの〈ウラヌス〉粒子や〈プルートー〉粒子まで選り分けて、高度に濃縮出来る。もし、アルプがその能力を最大限に発揮したとしたら……極めて高濃度の〈ウラヌス〉や〈プルートー〉溶液が生じることになる。

棚橋 つまり……。

樋村 1999 年の東海村の JCO での事故を憶えているか？ 急性被曝により染色体破壊が起き、ふたりの作業員がぐずぐずに崩れて死んだ。

棚橋 臨界事故!? 〈ウラヌス〉や〈プルートー〉がアルプの中で臨界量に達して、臨界事故が発生する……ってか？ おいおい……そりゃ、なんぼなんでも大事(おおごと)過ぎだろ……。

口をあぐりと開けた棚橋。考え込むように俯いたままの樋村。
舞台がゆっくりと暗くなっていく。
暗転。

6. おっさん達(一部お婆さん)が語る〈ネフィリム〉と〈アルプス〉の危険性

明転すると、石間と滝野。

- 石間 高濃度汚染水の処理と海洋廃棄の開始に先立って、お歴々が新型アルプスの視察をしたいと？
- 滝野 ええ。寄り正しく言うなら、アルプスのコアとなっているアルプに反〈ネフィリム〉主義者が喰われるところを見てみたいと……。
- 石間 そりゃ、悪趣味ってもんだろ。俺は嫌だね。
- 滝野 オヤジ。日本〈ネフィリム〉開発、〈ネフィリム〉安全保安院まで出張してくるって言うんだ。逃げるに逃げられないでしょ。この前の〈ネフィリム〉での会合は、パピヨンの逃亡騒ぎでほとんど体(てい)を成さなかった。うちの組だけじゃなく、関東電力の連中にまで、建物中、隈無く探させて……。
- 石間 当たり前だ、滝野。どんな会合だろうが、パピヨンちゃんの命より大切なものはないだろうが。(胸に抱えた縫いぐるみに、優しく語りかける)ねえ、パピヨンちゃん。
- 滝野 で、会合は日を改めて開くことになった。こちらの一方向的な都合で……。だから、今回の出席要請を無視することは出来ないんですよ。
- 石間 とは言ってもなあ……。
- 滝野 メルトダウンしたあの〈ネフィリム〉の対応に関しても、明確な進捗が求められているんです。全国に設置された〈ネフィリム〉の再稼働の準備を確実に進めるためにも……。

滝野が台詞を言いながら、退場する。
舞台の袖から壬生と大念が現れる。

- 壬生 強引に進められている〈ネフィリム〉の再稼働……。それをどうやって止めるべきか。その危険性をどうやって伝えるべきか……。
- 大念 ねえ、壬生先生。まずは私にそれがよく分かるように噛み砕いて教えてみてよ。
- 壬生 「まずは隗(かい)より始めよ」か。いいこと言うねえ、楓ちゃんは。
- 大念 かいつて？ ツブ貝とか、アオヤギとか？ つーか、回転寿司の食べ方指南？
- 壬生 そうだ、そうだ。寿司はまず貝から食い始めよだ。因みに、楓ちゃんは「エノク書」って知ってる？
- 大念 (首を横に振る)
- 壬生 旧約聖書偽典である「エノク書」は〈死海文書〉のひとつ。〈死海文書〉とは 20 世紀中葉に死海のほとりの遺跡ヒルベト・クムランで発見された書物全般を指す……。いまいちピンと来ない？
- 大念 (首を立てに振る)
- 壬生 まあ、いいわ。そこんところはあまり重要じゃない。その「エノク書」には、地上に降り立ったグリゴリは人間と交わり、〈ネフィリム〉と呼ばれる巨人が産み落とされたとある。〈ネフィリム〉は 3000 ペーキュス、つまり 1300m の身長を持つ雲をも貫く巨人だと記されてい

る。

大念 1300m!?

壬生 まあ、高尾山の二倍以上の高さだね。

大念 なんで比較が高尾山？

壬生 (立ち上がって、腰のあたりに手のひらを翳して) まあ、このあたりが高尾山かあ……って、でっけえな、わたし！ 誇張しすぎだね。とは言うものの、いにしへの伝承というものは得てして誇張に過ぎるきらいがある。たとえば……。

大念 まあ、その誇張の件はおいといて。その巨人っていうのは、本当は巨人なんかじゃなく……。

壬生 そう。比喻。いわゆる喩え話。〈ネフィリム〉は、その巨人とは……。

大念 エネルギー創成魔術、またはその巨大施設のことを指していた。

壬生 〈ネフィリム〉は天界の秘術だったの。でも、グリゴリどもが人間にそれを伝えた。禁を破ってね。〈ネフィリム〉は〈ウラヌス〉という鉱石を利用したエネルギー創成……。

大念 ウラヌス？

壬生 鉱石——石の名前よ。太古の昔、地中にまき散らされたもの。世界創成のころの話。天空の王ウラヌスが大地の神ガイアと交わり、オリンポス 12 柱、男神女神各々 6 柱——つまり、男と神 6 人と女神 6 人の巨神が誕生した。

大念 きょしん？

壬生 巨大な神のこと。で、その末っ子がクロノス。

大念 その末っ子がどうかしたの？

壬生 母ガイアの命に従い、自らの父親であるウラヌスの男根を大釜で切り落とした。

大念 だん……何だっけ、それ？ (←知ってるくせに)

壬生 可愛く言えば、おちんちん。

大念 ……。 (可愛く、顔を赤らめる)

壬生 めんどくさい娘(こ)だなあ、お前。

大念 でも、でもでも！ 何でまた、そんな恐ろしいことを母親が子供に命じちゃったわけ？

壬生 いろいろと複雑な事情があったんじゃないの？ 愛憎表裏一体ってヤツ？ 夫婦の仲は難しいもんなんだ。それは人でも神でも天使だって一緒でしょ。

大念 そこはぼやかすんだ。(独りごちて) ○根は惜しげもなく口にするのに……。

壬生 ホントめんどくさい娘だなあ、お前。でだ。この事件を境に神々の王の座はクロノスに移ることになるんだけど、その時のウラヌスの憤りたるや私たちの想像の域を遙かに超えていたに違いない。だって、切り取られたウラヌスの男根がクロノスの手の中で突如破裂しちゃったぐらいだから。

大念 破裂？ マジで？ そりゃさぞかしびっくりしたことでしょうね。

壬生 私はびっくりしないけどね。手の中であれが急に炸裂しちゃっても……。 (ついリアルにエロい仕草をしてしまう)

大念 壬生先生、エロ過ぎ…… (または、無言で顔を赤らめる)

壬生 めんどくさい娘だなあ、マジで。まあいいや。で、話の続きだけど……。手の中で突如破裂した男根。その欠片(かけら)が数多の数に分かれ、地上に降り注ぎ、大地の中に吸い込まれるように沈んでいった。そして、やがてそれが〈ウラヌス〉という鉱石になった。

この石には当然の如く、ウラヌスの憤懣や慟哭が閉じ込められている。奸計(わるだくみ)によって王座を奪われた怒りや我が子や妻に裏切られた悲しみ……。だから単なる石ころに過ぎないのに、〈ウラヌス〉は熱を帯び、連鎖反応を引き起こし、そして、炸裂することもある。

大念 それが〈ウラヌス〉の秘術？

舞台他方に但峰と棚橋が現れ、照明が振り替わる。

但峰 それが〈ウラヌス〉の秘術の裏話ってやつか。すごく勉強になるなあ、棚橋さんの話。

棚橋 そう、それが〈ウラヌス〉は熱を帯びる理由と言える。まあ、半分は受け売りみたいなもんだが、な。

但峰 誰の受け売り？

棚橋 まあ、それはそうと。(と、曖昧に誤魔化して、顔を止せ始める)で、ここからが、更に重要な話となるになる。実は……。

但峰 実は？

棚橋 〈ウラヌス〉の秘術にはもうひとつ、重篤な危険性が潜んでいる。

但峰 危険性？

棚橋 それは……熱を帯びて、連鎖反応を引き起こした〈ウラヌス〉から〈プルートー〉が創成されることだ。

但峰 プルートー？ なんだっけ、それ？ どこかで……。

棚橋 プルートー。ギリシャ神話では「冥府の王ハデス」。

但峰 めいふって……？

棚橋 まあ、「あの世」のことだな。地中深くに存在する「冥府」。そこを支配する王がハデス、すなわちプルートーだ。

但峰 創成された〈プルートー〉が危険って言うのは？

棚橋 〈プルートー〉は〈ウラヌス〉より遙かに業が深い。さすが冥府の王と呼ばれるだけはある。

但峰 業が深いって？

棚橋 〈プルートー〉は〈ウラヌス〉に比べ容易に臨界に達しやすい。つまり、連鎖反応を起こしやすく、一度それが始まれば、膨大な冥府の魔力が発生する。アメリカのロスアラモスでは〈デーモンコア〉という6.2kgの〈プルートー〉の塊が臨界に達し、まき散らされた強力な魔力によって、周囲の者の命が奪われた……。

但峰 デーモンコア？

棚橋 悪魔の塊。ロスアラモスでは、そう呼ばれていたそうだ。当然その爆ぜ易さを利用して軍事兵器としても利用されているのは周知の事実だ。だが、〈プルートー〉の業の深さは単に爆ぜ易さだけではなく、体内への吸着力——つまり、肉体への執着の強さだ。一度体内に取り込まれれば、骨や肝臓に何十年にもわたり居座って魔力を発散させ続ける。その影響によって、肉体はゆっくりと、だが確実に崩壊へと向かう……。

但峰 でも……。

照明が壬生と大念に切り替わる。

大念 でも……。どうして〈ウラヌス〉から〈プルートー〉が出来ちゃうのかな？
壬生 さあ、それはよく分からない。でも私はこう思ってる。それはウラヌスのプルートーに対する思いの強さによるものだって。男根を切り取ったばかりでなく、その王座を奪ったクロノスにウラヌスは呪いをかけた——いえ、予言をしたの。「お前もまた産まれた子に権力を奪われる」って。で、その予言通りにクロノスを打ち破ったのが、その末の子のゼウスと……。

大念 プルートー？
壬生 そう。プルートーにその認識はないとしても、ヤツはウラヌスの意志を継いだことになる。ウラヌスから見れば、プルートーは自らの恨みを晴らしてくれた勇者。だから、猛り狂った〈ウラヌス〉からは冥府王〈プルートー〉が創成するの……。

照明が再び但峰と棚橋に切り替わる。

但峰 なるほど、それがプルートー生成の理由ってことか。
棚橋 まあ、長々と話してきたが、〈ネフィリム〉に関しての俺の意見は極めて単純だ。
但峰 単純？
棚橋 (頷いて) そもそも、単に湯を沸かすだけなのに、どうして〈ウラヌス〉の魔力が必要なんだ？ 蒸気でタービン回すだけだったら、〈ウラヌス〉に頼るまでもない。地熱でも、太陽光でも十分に湯は沸かせるだろ？

舞台に樋村と秦が現れる。照明が振り替わる。

樋村 どう思う？
秦 高濃度排水の処理にも用いているなら、可能性がない訳じゃない。濃度が18%を超えたあたりから〈ウラヌス〉も〈プルートー〉も不安定になる。

樋村 つまり、臨界事故が起こる可能性は十分にある？
秦 アプルの能力が最大に発揮されたと仮定しての話だ。

樋村 アルプスの視察が明日の午後には行われる。お歴々が集まってな。
秦 そこで、新しい犠牲者がアルプに与えられるということか？

樋村 えぐい絵ヅラだが、そういうことになる。美味しいエサを立て続けに与えられているアルプは……。

秦 明日、その最大の力を発揮するかも知れない……。

樋村 待て！
秦 どうした？
樋村 石間の部屋に、滝野が入ってきた……。

眉を顰める秦。樋村は集中して聞き耳を立てる。
石間と滝野に明かりが振り替わる。

ドアの開く音とともに滝野が登場。

滝野 (不穏な響きを帯びた呼びかけ) オヤジ！
石間 どうした、滝野？ 何があった？
滝野 いいえ。昼飯はどうしますか。
石間 ああ、もう昼か……。蒸し暑いし、担々麺でも食うか？
滝野 越乃家(こしのや)の？
石間 そうだ。
滝野 越乃家一押しの〈越担々麺(こしたんたんめん)〉ですか？
石間 ああ、〈越担々麺〉。あれは夏バテに効く……と、それにしても、だ。
滝野 なんですか？
石間 〈越担々麺〉って言うのはイカしたネーミングだ。(前進するように軽くステップを踏み) 虎視眈々……って感じで、カッコイイじゃねえか、なあ？
滝野 (石間のマネをして、軽くステップを踏む) 虎視眈々……ですか？
石間 そうだ。なんか、この隙のないステップが、ブルース・リーっぽくないか？
滝野 ブルース・リー？
石間 そうだ。滝野、お前、ブルース・リーでステップ踏んでみろ。
滝野 俺が……ですか？(一瞬躊躇するが、結局、マネをする) 虎視眈々……。
石間 こら、滝野。そりゃダメだ。ブルース・リーなら、もっとこうだろう？(と、ちょい上手いマネをする) 虎視眈々……。やってみろ！
滝野 (吹っ切れたのか、石間よりもっと上手くマネをする) 虎視眈々……。
石間 (頭を抱えて) 馬鹿か、滝野？ ブルース・リーなら、もっとこうだろ！(ちょっと行きすぎたモノマネで) 虎視眈々……。
滝野 違いますよ。こうですよ。(更に行きすぎたモノマネで) 虎視眈々……。

その間に急速に、舞台袖には秦と樋村へのスポットに明かりが振り替わる。
首を横に振る、樋村。

秦 どうした？ 何か掴んだか？
樋村 いや。単なる時間の無駄だった……というか、演出意図が分からない。
秦 演出意図？
樋村 ちょっと休ませてくれ。急に疲れが出た……。

退場する樋村。

急速に暗転する舞台。

暗闇の中でも、ブルース・リーの限度を超えたモノマネが未だ進行しているようだ。

6. おっさんは悪夢にうなされやすい体質なのかもしれない

暗がりの中から聞こえてくる秦の声

ゆっくりとサスの明かりが明るくなっていく。舞台上には秦が一人で立っている。

秦 ……だから、なんの罰なんだ。痛、痛いから、翼を引っ張るな。俺が何か罪を犯した？
痛いつて。俺の翼から手を放せ！ ……分かった、なんでもする。その代わり、翼をもぎ
取るのだけは許してくれ……痛いから……なあ、痛えよ……頼む……翼をもぎ取るの
だけは……

膝を折ってうずくまる秦。その背後に女が立っている。早坂だった。

早坂 大丈夫？ 凄い汗……

秦 早坂さんか？ びっくりした。よくここが分かったな。

早坂 (にっこりと微笑んで) 蛇の道は蛇よ

秦 質問の答えとして、そのことわざは妥当か？

早坂 じゃあ、「餅は餅屋」だったら？

秦 一緒だよ。答えになってない。(額の脂汗を拭う)

早坂 それにしても凄い汗だよ。悪夢でも見た？

秦 ああ。

早坂 どんな悪夢？

秦 女が追い掛けてきた。鬼のような形相で。

早坂 何でまたそんなことに？

秦 朝まで飲んだくれてた。彼女の誕生日だったのを完璧に忘れて……

早坂 そりゃ、先生が悪い。

秦 だよな。

早坂 で、鬼もような形相の女が私ってこと？

秦 さあね。(周りを見渡して) あれ、棚橋と樋村は？

早坂 知らない。私がきたときは先生一人だったけど。

秦 あいつら、鍵開けっ放しでコンビニでも行ったか？ っていうか、もう俺を先生って呼ば
ないでくれ。

早坂 じゃあ、私を「早坂さん」って呼ぶのも、どうにかして？

秦 ……。

早坂 (一瞬顔を曇らせた後、真剣な面持ちになり) ねえ？

秦 いや、だからさ……。『早坂さん』は『早坂さん』だからしかたないだろ？

早坂 違うでしょ。

秦 違う、って？

早坂 先生が見てた夢……。

秦 ……。

早坂 女に追い掛けられる夢なんかじゃなく、翼をもぎ取られる夢だったんでしょ？

秦 ……。

早坂 「翼をもぎ取るのだけは許してくれ……痛いから……」その寝言を何度聞いたことか。っていうか、先生、寝言の滑舌よすぎだよ。

秦 (独りごちて)寝言の滑舌はいいのか？ 舞台の上ではレロレロなのに……。

早坂 知ってるよ、私。先生が天使だったって。羽根をもがれて、地上にたたき落とされた天使。……で、天を裏切ったグリゴリという天使達と戦ってるんだったつけ？

秦 どうして、そんなことを？

早坂 数々の滑舌のいい寝言。その断片をつなぎ合わせたら、そんな結論になっちゃった。

秦 論理的な思考だな。

早坂 理系女子ですから。当然、ムーミン好きの頭ん中がお花畑系【←小保方さん】なんかじゃなく、超ロジカル系の方ですけどね……。 (と、微笑みながら、秦に近づき、小箱を手渡す)

秦 なんだこれ？

早坂 お土産。北海道への出張から戻ってきたばかりなんだ。で、北海道名物『黒い恋人』…。

秦 白い恋人だろ？

早坂 違う。『黒い恋人』。

秦 マジで？ (パッケージをまじまじと見つめる)

早坂 旭川特産の黒豆を贅沢に練り込んだサッポログルメフーズの一押し商品。

秦 これ、提携公演？ サッポログルメフーズ、または旭川農協との。

早坂 何言ってるの？

秦 (パッケージを見つめていたが、何かに気付き)早坂さん。これ。黒い恋人の「恋」の字だけど、「こころ」じゃなくて「すいによろ」になってるぞ。

早坂 なんだ「すいによろ」って？

秦 さすが理系女子(リケジョ)、漢字にや弱い。

早坂 ひとまとめにすんな。

秦 「すいによろ」って、春夏秋冬の「夏」って言う漢字の下の部分のこんなヤツ。(指を動かして、中空に字を書く)。

早坂 (パッケージをまじまじと見つめ)あっ、ホントだ。

秦・早 (顔を見合わせて)これじゃあ、黒い恋人じゃなく……(客席に顔を向け)黒い変人？

早坂 誤植？

秦 こんなベタな誤植があるか？

早坂 じゃあ、意図的？

秦 何を意図して？

早坂 じゃあ、テロ？

秦 なんで、テロ？ なんのためのテロ？ つーか、即、商品回収だろ、これ。

早坂 だったら、それプレミア付くね。ヤフオクで五百万円で落札だよ。

秦 さすがにその落札価格は無理だ。

早坂 かなあ？ でもさあ、「黒い変人」なんて、先生にぴったりじゃん。

秦 なんで？ 俺は黒くもないし、変人でもない。

早坂 そうだったけ？

秦 そうだ。でも、これは有り難くもらっておくけど。

早坂 で、結局はヤフオクに……。

秦 そうするかも知れないけど、俺がもらったものだからね。

早坂 そりゃそーだ。

秦 で、早坂さんは、どうして北海道なんかに出張ってたんだ？

早坂 あれ、言ってなかったっけ？ 講演会に呼ばれたの。市民団体主催の……。

秦 講演会？ まさか……？

早坂 そう、泊(とまり)村の〈ネフィリム〉。その危険性について考える集会で講演してきた。今でこそ、太平洋側のプレート境界に研究の中心を移したけど、大学院の博士課程では……。

秦 早坂さんの博士論文の題名は……。

早坂 「奥尻島の形成と日本海プレート境界」……。思い出した？

秦 忘れるもんか。

早坂 あの〈大洪水〉で〈ネフィリム〉のすべてが停止した。でも、再稼働の準備が着々と進行してきている。佐賀県の玄海(げんかい)、福井県の高浜(たかはま)、そして、北海道古宇郡(ふるうぐん)の泊……。主に日本海に面した〈ネフィリム〉が最優先で再稼働されようとしている。それは……。

秦 弧状列島(こじょうれつとう)である日本の背面——つまり、日本海側にはかねてより、プレート境界が存在しないとされてきたからだ。でも、それは誤った考え方だ。

早坂 1983 年。秋田沖を震源とした日本海中部地震(M7.7)による建物倒壊など直接被害での死傷者数は 63 名足らずだった。でも、それによって起きた津波によって、秋田県、青森県、そして北海道で合計 100 名の死者が出た。牡鹿半島の海岸に遠足に来ていた小学生 43 人と引率教員も津波に襲われ、13 人の児童の命が失われた。

秦 1993 年。北海道南西沖地震(M7.8)の震源は奥尻島近海。地震と津波で 200 人を超える死者が出た。

早坂 1995 年。サハリン北部地震(M7.6)は都市ネフチェゴルスクの住民の 2/3 の命を奪った。ネフチェゴルスクは壊滅し、再建の目処は未だ立っていない。これらの震源が日本海の東の縁に並んでいたことから、先生はこう仮説を立てた。

秦 北米プレートとユーラシアプレートの境界がそこにある。

早坂 その仮説を実証するために先生と私は、調査チームを編成して奥尻島へ向かった。路頭調査やボーリングでの分析から、奥尻島が極めて早いスピードで隆起してきた島であることが分かる。

秦 急速な隆起は度重なる大地震によってもたらされたものと判断できる。実際、海岸の露頭で、少なくとも 4 回の大津波を示す明白な堆積物が観察された。そして君は、論文の最終章をこう締めくくった。

早坂 日本海東側の北米プレートとユーラシアプレートの境界の形成は地質年代的に若く、その境界部分では複雑な圧力がかかっていると予想される。よって、地震の予知に関しては甚だ難しいと言わざるを得ない。つまり、それがいつ起きてもおかしくないのだ。

秦 君はそれを講演会で発表したわけか。

早坂 ええ。先生と私が見つけた活断層、奥尻島を隆起させたそれは泊村の〈ネフィリム〉から100キロ圏内にある。この断層による大地震が発生すれば間違いなく、津波は起き、〈ネフィリム〉を襲う。同時に〈ネフィリム〉の周辺域でも火山性の隆起が起こる可能性だって十分にある……。

秦 早坂さん。どんな小さな市民団体主催の講演会であったとしても、日本〈ネフィリム〉開発や北海電力の連中は目を光らせている。派手に立ち回ったら……。

早坂 目を付けられる。

秦 そして、要注意人物リストに載り、最悪の場合は、大学の職を失うことになる。

早坂 先生みたいに？

秦 そうだ。だから……。

早坂 だから、なに？ 目立たないように隠れてろ、って？ 自分自身の信じるのではなく、虚偽を口にしろ、って？

秦 君を危険な目に合わせたくはない。

早坂 このままだと、「官民共同公開シンポジウム」がやらせ丸出しで行われた後、泊村の〈ネフィリム〉が再稼働することになる。〈プルートー〉も燃料に含めたプルートサーマルも済し崩し的に決定される。そして、それが呼び水となって、日本海側の玄海(げんかい)と高浜(たかはま)、それに加えて鹿児島島の川内(せんだい)、愛媛の伊予(いよ)が、動き出す。さらには、太平洋に面したすべての〈ネフィリム〉が……。

秦 君は前途有望な才能のある若き研究者なんだ。そして優秀な教育者でもある。だから……。

早坂 やめて！ (と、叫び、秦の言葉を遮った後、静かに語りかけるように) 私……。私、先生の敵(かたき)を取りたいの。これは私の敵討ちなもの。

秦 ……。

早坂 「〈ネフィリム〉は人類の手に負えるものではない」そう教えてくれたのは先生だよ。それなのに……。

秦 ……。

早坂 先生と言い争いなんかしたくないよ。喧嘩なんかしたくないのに。

秦 ……ごめん。

早坂 謝んなくて、いいよ。一緒に戦って欲しいだけ。

秦 戦っているさ、〈ネフィリム〉と……。俺は俺なりの方法で。だから……。

舞台後方に一人の女が立っている。
アルマ(ロス)だ。ロリポップキャンディをなめている。

アルマ ごめんなさいね。お取り込み中……。

早坂 (驚いて、秦に) 誰？

秦 (拳銃を引き抜き、銃口を向ける) アルマロス！ どうしてここに？

アルマ やだなあ、野暮ったい。アルマって呼んで、って言ったじゃん。それはそうと、殺戮天使も、人間愛しちゃうことあるんだ。ちょっとびっくり。だって、「グリゴリと同じ意味で人を愛

したら、グリゴリと同類だ」って口から泡を飛ばして叫んでたのはどちらさんでしたっけ？

秦 俺は……愛してなどいない。

アルマ あー、非道い！ それ、彼女の前で言っちゃっていいの？ それはないでしょ？ やることやってるのにね……。

早坂 ……。(もし可能なら、ちょっとだけ赤面すると可愛いかもね)

アルマ ねえ、早坂さん？ ほんと非道い男だねえ。最低だよ、こいつ。

秦 何をしにきた？

アルマ 何をしに？ それ聞きたいわけ？ それはね……(早坂に近づき、後ろから抱きしめる) 東日本技術科学大学の早坂朋美さんに会いに来たの。

早坂 (怯えて)私に会いに……って？

アルマ (にっこり笑って)拉致するためにね。

早坂 拉致って……。

アルマ あんたさ、要注意人物リストの中で一番若い女性だったからさ。それで白羽の矢を立てちゃった。

早坂 白羽の……って？ 一体誰なの？ これって、な……。

叫ぶ早坂の口に、アルマがなめていたロリポップキャンディが突っ込まれる。

アルマ (早坂に鋭く)ちょっと黙ってな。

秦 誰の指示だ？ お前の自由意思ではないはずだ。

アルマ 私の自由意思ですが、何か？ とはいっても、いろいろとしがらみがあるのは事実か。日本〈ネフィリム〉開発とか、なんチャラ電力とか、その向こう側の〈ネフィリム〉安全保安院とかね……。まあ、そのあたりの繋がりは、説明するのウザいんで、ご想像にお任せするわ。

秦 石間組だろ！ あいつの、滝野の指示か？

アルマ そうかもね。でもさ、殺戮天使。(早坂をぎゅっと抱きしめて)あんた相当ヤバイね。人を愛した上に、更に……。 (ふふふ、と笑いが唇から溢れ、その後の言葉が続かなくなる) いいのかなあ、こんなことしちゃって。マジでヤバイよ。もう、惚れちゃいそうなぐらい。ヤバイ……。これ、絶対に面白いことになる……。 (ゲラゲラと笑い始める)

秦がアルマの頭に向けて銃弾を撃ち放つ。
スクリーン上に現れた〈セフィロトの樹〉が青白く閃光する。
しかし、ゴウと真っ赤な炎が吹き上がり、〈セフィロトの樹〉が燻った灰になる。

アルマ だから、私には効かないって。アマダスの魔法は……。

早坂を後ろから抱きしめたまま、満面の笑みを湛えるアルマ。
早坂の震える唇が「先生」と動いたようにも見える。
アルマの身体の両翼に突如、天使の翼が現れ、一瞬舞台が光で満たされる。
そして、すべてが闇に包まれる。

8. おっさん達は「1 時間で片を付ける」とうそぶく

暗闇の中に響く、野獣の咆吼。アルプの声だ。
ゆっくりと明転すると、舞台の中央にタミエルが立っている。
その傍らにパピヨンを抱いた石間。
スクリーンに投影された廃墟っぽい背景。

タミエル ごきげんいかが、アルプ？ あらあら、ご機嫌斜めっぽい？ お腹が空いているのかなあ……。

石間 おい、タミエ。大丈夫か？ 突然、噛みつかれたりしないだろうな……。

タミエル シュヴァルトアルヴヘイム。黒い妖精の国に幽閉されていたアルプを召喚したのは、この私。だから、私たちの言うことはよく聞く。

石間 この装置の中にいるのか？

タミエル ここに私たちのすぐそばにいる。

石間 すぐそば？

タミエル アルプの吐息が耳元で聞こえるでしょ。彼の鼻面がここにある（虚空を手で撫でる）

石間 マジで？

タミエル アルプは無色透明。

石間 透明？ 目に見えないってことか？（きょろきょろする）

タミエル あらあら。パピヨンちゃんに興味を持ったみたい。ダメよ、アルプ。なめるだけにしなさい。

石間 なめるって？

と、石間が総毛立つような悲鳴を上げる。
腕の中に抱きしめたパピヨンごと石間が強大な舌になめられたのだ。

石間 のほほ……って、今、なめられたぞ。一抱えもある巨大なこんにかくみたいなのがべろーんと……。

タミエル（きつい調子で）アルプ。それ以上のオイタはだめ。

石間 なんなんだ。つか、なんで透明なんだ？

タミエル 自分の身体を透明に出来る〈魔法の帽子〉をかぶってるの。

石間 待て待て、じゃあ、その帽子を取ったら……。

タミエル 彼の姿を目にすることが出来る。巨大で奇怪な……。

一際大きな咆吼。[←クローバー・フィールド風]

石間 （大層驚いて、パピヨンを抱きしめて）ひょえええっ……。

タミエル あら、奇怪と言われたら、怒るんだ。繊細なのね。ごめんごめん。ねえ、彼の大きく逞しいその身体をみてみたい？

石間 いいや、俺は……。でも、午後にここにやってくる。あいつらは見たがるかもな。
タミエル そうね。日本〈ネフィリム〉開発や保安院のお歴々は高尚な趣味をお持ちでしょうから…
…。(前方上空を指差し)あの大きなはめ殺しの窓の向こうから、空調が効いた快適で
安全な部屋の中から、アルプが生け贄を食べるのを感嘆の声を上げながら、ご覧にな
るんでしょう……。

タミエルが指を鳴らすと、スクリーン上でセフィロトの樹が赤く燃え、一瞬にして消えると
と、礫台が現れる。礫台には荊や鎖、そして訳の分からないぬめぬめしたものが巻き付
いているし……。

タミエル ここに生け贄が礫にされる。泣き叫べば叫ぶほど、恐怖に怯えれば怯えるほど、魂の味
わいはより深く、甘美なものとなる。そうよね、アルプ？

大きな咆吼。
パピヨンも驚いて鳴き声を上げる。

石間 (パピヨンを抱きしめて)ひょえええっ……。タミエ。怖すぎ。ちょっと、怖すぎだし……。
俺、見ないから……。きっと、パピヨンちゃんも見たくないから……。 (パピヨンに)ね
ー？ (強引にパピヨンの頭を縦に振らせて)うんうんってパピヨンちゃんも頷いてるし…
…。

タミエル あら、残念。今日は折角だから帽子を脱がせてみようって思ったのに……。 (うっとりと
する)

石間 ほんと趣味がいいのう、タミエは……。

うっとりとした表情のまま遠くを見つめるタミエル。
その表情を覗き見て、石間の背中に悪寒が走ったようだ。
音響が高鳴り、暗転。
と、突如音が途切れ、但峰の声。

但峰 東日本医科大の宮岡教授が立ち入り禁止地帯で警察官により発見され、同大学に収容
されたとのこと……。

壬生 大介君。行くよ、病院。

但峰 面会謝絶ですが？

壬生 昨年問題となった、さいたま家裁での「面会謝絶撤回」の判例を忘れたの？

但峰 つーか、あれは別居中の父親が娘への面会謝絶の撤回を求めた案件で、病院の面会
謝絶とは意味が全然違いますけど……。

壬生 ゴタゴタ言うな。弁護士記章見せびらかして、病院の受付でギャーギャー騒げば面会謝
絶なんてどうにかなるって……。

但峰 なりませんよ。

明転。

神妙な顔つきの壬生。その傍らに、渋い顔をした但峰。

スクリーンに投影されている病室の無機質な壁。花瓶に生けられた花束。

壬生 弁護士の壬生匡子です。初めまして、宮岡先生。

但峰 ……って、どうにかなってるし。

壬生 行方不明の間の記憶は？ ……宮岡先生？

但峰 (壬生を制して)ダメですよ。宮岡先生は……。

壬生 (但峰を制し)……宮岡先生。顔をこちらに向けて頂けますか？ (両手でその顔を押さえる仕草をして、自らの顔をそれに近づけていく)

但峰 (壬生の行為に驚き、焦って)なにするんですか？ キスでもする気ですか？

壬生 宮岡先生の目を見たいの。瞳の奥を。そのもっと奥まで……。

スクリーンで青く輝くセフィロトの樹。

一瞬の間を置いて爆散すると、アルマの笑顔。

間を置かずにアルマの顔が爆散し、コマ落としのように映像が急速に切り替わる。

瓦礫／何も無い大地／高い煙突の立つ施設／立方体の特殊な建物／薄暗い地下室／
悪趣味にデコレートされた磔台！

映像が一瞬光に包まれ、そして何事もなかったように病室の壁に戻る。

但峰 何をしたんですか？

壬生 魔法よ。イントロスコピー。宮岡先生が見てきたものを、私も見た……。

舞台後方に袖に現れる、秦、棚橋、樋村そして大念。

秦 多核種除去装置アルプスの位置は？

壬生 イントロスコピーで得た記憶によれば、〈ネフィリム〉の敷地内の西側のはずれ。

スクリーン上に Google Earth の地図が現れ、〈ネフィリム〉の敷地にズームする。

棚橋 この中にアルプがいるのか？

壬生 そういうことになる。

秦 樋村、お前の〈天空の目〉でも見えるか？

樋村 見える。周辺に人影らしきものはない。

但峰 人払いされている？

壬生 どうかしらね。

秦 樋村が掴んだ情報によると……。

樋村 今日の午後到这里で視察が行われる。

棚橋 石間は？

樋村 既に現地に入っている。

大念 グリゴリも？
樋村 グリゴリと、当然滝野も……。
壬生 そして、アルマに拉致された……。
秦 東日本技術科学大学の教員。専門は地質学。
棚橋 技科大の地質学って……。知り合いか？
秦 まあ、そんなところだ……。
壬生 日本民生党の安西、東日本医科大の宮岡、そして新たな犠牲者……。最近のアルプは
 暴食気味だ。
但峰 このままだと……。
棚橋 腹をこわす……。
樋村 だけでなく、臨界事故が起きる可能性がある。
壬生 その連鎖反応に触発されアルプの身体が爆散する、なんてことにしたら……。
大念 〈ネフィリム〉は誰の立ち入りも許されない不毛の大地になる？
秦 ギリギリの状況で行われている冷温停止作業にも支障が出る。そして……。
棚橋 うわっ。想像しただけでも、前身総毛立つ(と、身震いする)
但峰 絶対にアルプにエサを与えちゃいけない。とにかく、拉致された者の救出を！
秦 それだけではダメだ。アルプ自体をどうにかしない限りは。
大念 でもどうやって？
秦 アルプを召喚したのは？
樋村 タミエルだ。
秦 召喚したタミエルが消滅すれば、魔法は解け……。
壬生 アルプも幽閉されていたシュヴァルトアルヴヘイムへと引き戻される。
棚橋 でも、どうやってタミエルを倒す？ あいつは銃弾をよけることが出来る。
樋村 拳銃の銃弾を至近距離から撃ったところで、あいつは……。
棚橋 それにアマダスの弾丸だって、アルマロスが無力化してしまうだろ。
秦 確かに、大きな障害となるのはアルマロスの護符(タリスマン)の力だ。だが、魔法には
 効果を発揮できる範囲が限られているものがある。
壬生 博だって、アマダスの弾丸を離れた場所に創成することは出来ない。
但峰 護符(タリスマン)の効果にもそれに従うと？
樋村 待て。俺の〈天空の目〉は距離に関係しないが……。
秦 それは、天界との交信に関わっているからだ。天の力をお前が借りているということに
 なる。
大念 もし、アルマロスの力も、それみたいなものだったら……。
秦 確かめてみるしかない
棚橋 どうやって確かめる？
秦 直接聞く。
棚橋 はあ？ アルマに電話してか？ それともメールで？
秦 まあ、聞き方は色々あるもんだ。
大念 おっちゃん達、いつもと顔つきが違う。なんか、雰囲気が普通じゃない。
秦 これがいつもの俺たちだ……。とか。(時計を見て)時間がない。直ぐさま侵入の準備を。

まずは車だな……。

大念 (一歩前に踏み出して、仁王立ちとなり) おっちゃん達の作戦。その前面に立つことはできそうにないけど、運転だけは任せとけ。(両手にはドライビング・グローブを付け始める)

三人 (ポカンとする)

壬生 実際、この娘の運転テクニックは最高よ。楓ちゃんと車があれば銀行強盗だって簡単にできそう。

但峰 銀行強盗はさすがにまずいでしょ。

大念 まあ、任せろ。因みに、この前みたいに作業員に紛れての侵入？ だったら、J ヴィレッジに向かえばいい……。

秦 J ヴィレッジを経由して作業員に偽装している暇はない。ダイレクトで〈ネフィリム〉に向かう。

大念 そう来なくっちゃ！ マップの検問、巡回経路はすべて調べてある。警備なんて、もともとずぶずぶだしね。南西側からギリギリまで〈ネフィリム〉に近づくことが出来る。

壬生 (地図を指差して) 〈ネフィリム〉の南西部 2km 歩けば、アルプスに行き着ける、か……。

秦 この地点で俺たちを降ろした後、楓ちゃんと大介君は検問を突破し、立ち入り禁止区域を車で走り回れ。出来るな？

但峰 攪乱作戦ですね！ 警察車両を引きつけて……。

大念 そして、終いにやマップをまけばいいんだろ？

秦 そうだ。1 時間後に、ここ(地図を指差し)に戻れ。そこで俺たちをピックアップする。それまでに俺たちは片を付けてる。

棚橋 たった 1 時間で？

秦 そうだ。正午までにすべてを終える。そして、昼飯は越乃屋で……。

樋村 越担々麺？

秦 それ。匡子の奢りで。

壬生 やはり、私か？

棚橋 で、俺たちの役割は？

秦 棚橋は陽動作戦を担当。その間に俺がアルプスに侵入する。

樋村 秦が？

秦 だが、俺はアシストに過ぎない。ゴールを決めるのは、樋村。お前だ。

樋村 (頷く)

秦 匡子は樋村のサポートを。

壬生 博は本当に一人でいいの？

秦 捕まったのは、俺の知り合いだ。そう言わなかったか？ アルゴスを貸してくれ。

壬生 アルゴス？ (不審に思いつつも、ポケットから注射器を取り出し、秦に渡す) これをどうする気？

秦 俺自身に打ち込む。(左手を顔の高さまで上げ) この指の股に。昔から思っていたんだが、ここんとこ空洞になってそうじゃないか。

指の股に針を打ち込んで、顔をしかめる。左手を唇に近づけて囁く。

秦 聞こえるか、樋村。
樋村 ああ。
秦 パピヨンからの受信との混線は？
樋村 上手くザッピングするさ。
秦 これで交信可能だ。まあ、一方的だが……って、痛たあ！（指の股を触り）痛すぎだろ、この注射……ってか、痛たあ！
壬生 マジで？
秦 パピヨンは良くこの痛みに耐えたな……つーか、立派な動物愛護法違反だぞ、その注射。後から、後から痛くなってく。痛てて……。
棚橋 併せて、おっちゃん愛護法違反でもあるな。
秦 痛いのは耐えることにして、とにかく、作戦開始だ。作戦の詳細は車の中で話す。楓ちゃん、車を……。
大念 了解。腕が鳴るぜ！

暗転。

アクセルをふかす SE。車が走り去る。

幾多のサイレンが響き渡る。

ラウドスピーカーから福島なまりの男の声。

「その車、止まりなさい。止まれって言ってるのが聞こえねえのがあ？」

ノイジーな警察無線。

「チシッ……一台の不審車量が検問を突破。国道沿いを北上中。警邏中の全 PC は急行されたし……」

9. おっさん達、侵入を開始する

明転すると舞台の上に石間と滝野。

石間 おい、滝野！ 一体何バタバタしてんだ？

滝野 不審車両が検問を突破したとのこと。

石間 こっちへ向かっているのか？

滝野 分かりません。マッポが追跡に失敗したらしく……

石間 何やってるんだ、あいつら？ あんだけ雁首並べて、カスが……。 (腕に抱いたパピヨンに) ねー、ほんとマッポは役に立ちませんねー。

パピヨン ウー、キャンキャン。

滝野 もしもの事があるといけませんので、ウチの若いのを周辺の警備に回してます。

石間 今日の午後の視察は？

滝野 それも、微妙になりました。

石間 微妙？ 延期って事か？ おーい。お前に言われて、来たくもないのに、こんなところまで出張ってやったっていうのに……。

滝野 だから、まだはっきり決まったわけでは。不審車両が発見されれば……。

舞台後方に現れては、消える影。

気配を感じて、振り返るふたり。

滝野 今……。

石間 誰かいたような……。気のせいかな？

滝野 ええ。

石間 タミエとアルマに、このことは伝えたのか？

滝野 まだ……。

石間 おい。何やってるんだよ、お前。すぐにアルプ……。

舞台後方に現れては、消える影

気配を感じて、振り返るふたり。

滝野 今……。

石間 誰かいたな。気のせいじゃ……。

滝野 なく。(拳銃を引き抜き、後方に向ける) 誰だ！

舞台後方に現れる棚橋。拳口を石間に向けている。

棚橋 滝野、銃を下ろせよ。パピヨンの眉間とオヤジの胸に同時に風穴があくぜ！

石間 ダメだ。パピヨンちゃんはダメ！（パピヨンを強く抱きしめる）

滝野 手前は！ 元警官の……。
棚橋 おや、憶えてくれたのか。そいつは嬉しい……。
滝野 名前なんだっけ？
棚橋 棚橋だよ。
石間 お前はその不審車両で進入してきたって馬鹿か？
棚橋 「馬鹿」は余計だが、概ねその通りだ。
滝野 (銃口を向けたまま、携帯を耳に当て) おい、青木。何人か連れて、免震棟の西側に来い。不審者を発見した……。
棚橋 おい。くだらねえ電話してるんじゃない。その携帯と銃、地面に捨てろ。さもなきゃ、パピヨンの眉間とオヤジの胸に同時に……。
滝野 うるせえ！（と、銃を撃つ）

棚橋が腹を押さえて、ウツと呻く。撃たれたのか？

棚橋 ……って、撃たれてねえし。でも、びっくりしたあ。急に撃つか？ 油断も隙もあったもんじゃねーな。腹立ったんで、パピヨン撃つぞ！
石間 パピヨンちゃんだけはダメ！（パピヨンを強く抱きしめる）
滝野 オヤジ！ クソが（と、棚橋に向け銃を撃つ）
棚橋 (かわせたようだ) ぎりセーフ、今の……。 (独りごちて) つーか、こんなの相手じゃ、いくつ命があってもたらんだろ。じゃ、またな！

と、挨拶一発。すたこらさっさと逃げる棚橋。

滝野 待てや、こら！（携帯電話に）青木。免震棟の西側へ南から回り込め！ 挟み打ちだ。

棚橋を追って駆け出す(退場)。

石間 (パピヨンに) 良かったね。眉間に風穴空けられなくて……。さあ、悪いおじさんを懲らしめにいしましゅよお……。

暗転。

アルプの咆吼。

徐々に明るくなっていく舞台。スクリーンには礫台。

その前の、舞台奥台上に立つ早坂。手を縛られている。

舞台客席寄りにアルマとタミエルが立っている。タミエルは携帯を耳に当てている。

タミエル ……分かった。こっちはこっちでどうにでもなる。(電話を切る)
アルマ 龍っちゃん、なんだって？
タミエル 不審車両が〈禁制区域〉に侵入し、アルプの視察がペンディングになっていると……。
アルマ マジで？ 折角こんな素敵なエサを調達してきたのに。

早坂 エサ？
アルマ うん。早坂ちゃんはアルプのエサ。
早坂 アル……。

と、早坂、頭上に何者かの気配を感じる。獰猛でいやらしい巨大な獣の気配を……。
アルプの咆吼。早坂が恐怖に首をすくめる。
早坂の背後の映像がぼやけて歪む。透明な粘液が上から大量に流れ落ちてきたかのようだ……。

アルマ うわあ、アルプ、ヨダレ垂らしてる。量、半端ないし！
早坂 一体、これは……？
タミエル アルプ。待て！まだ、食事のタイミングではない。
アルマ アルプ、耐えられるかな？ こんな美味しいエサを鼻先に突きつけられて……。今回のエサは格別だからね。
タミエル 生娘だからか？
アルマ 残念だけど、生娘なんかじゃないよ。(早坂に)ねっ？
早坂 私……。
アルマ それにさあ、臺(とう)が立った[←ごめん。。]生娘なんて、発酵が進みすぎたフナ寿司……。
タミエル むしろゲテモノに近い。
アルマ マニア向けのね。早坂ちゃんはそんなんじゃなく、もっとレアな素材なの。彼女……(と、タメを置き、真剣な顔つきになり)ラザロだよ。
タミエル ラザロ？

アルプの咆吼。照明が激しく明滅する。
と、早坂があえぎ声を上げ、身をくねらせる。アルプの透明な舌が早坂の身体を舐め上げたのだ。
つーか、とてつもなくエロい描写だなあ……。あつ、思い出した！ 礫台の形が十字架型ではなく、X型で。それに縛り付けられながら、こんな状況になるエロい絵を永井豪のマンガで見たことがあるぞ、俺。

アルマ (さも嬉しそうに、早坂を指差して)ああああ。アルプがこらえきれず、舐めちゃったよ！
タミエル 待て、アルプ！ まだだ。
アルマ アルプ、お座り！ つーか、ハウス。ハウス！ いい子にするの。午後の視察がダメになったとしても、「おあずけ」にはしないから……。
早坂 私は……。私はどうなるの？

早坂が顔を上げる。
舞台では実現できそうにないが、ぬるぬるの透明なジェルが髪の毛や顔面を覆っていて、きつとコットンのシャツも濡れてしまっていて、ブラが透けて見えているって感じだろう。

「あれ？ 早坂さん、見かけによらず扇情的なブラを付けてるんですね？」ってセクハラ
紛いの発言もどこからか聞こえてきそうだぞ。

アルマ エサは食べられるためにあるでしょ？ だから、そうなる。想定外の事態は起こらない。
タミエル (鼻で笑って) 想定外の事態？ そういえば、石間が電話で言っていた……。
アルマ 龍っちゃん、なに言ってたの？
タミエル どうやら、殺戮天使が侵入してきたらしい。
アルマ それも想定内じゃない？ つーか、やっぱり来ちゃうんだ。(笑って) 早坂ちゃんを助けに
でも来たのかなあ……。
早坂 助け……って、まさか先生が？
アルマ そう、秦先生。ヒーローよろしく、登場しちゃうかもよ。

アルプの咆吼。照明が激しく明滅する。

タミエル どうしたの、アルプ？

舞台奥に拳銃を握りしめた秦が立っている。
当然のように、Unbreakable/Fireflight が響き始める。

秦 天呼ぶ、地が呼ぶ、君が呼ぶ。

「とう！」と叫んで、秦が台上からジャンプ。あっ、着地の際に、軸足の膝を痛めたかも知
れない。微妙にパンチシートに引っ掛かりながらも、舞台前面中央のサス位置まで移動
する。

秦 皆様のご要望にお応えして、元セクハラ准教授秦博、ここに見参！（と、見得を切りつ
つも、軸足の膝が気になるようだ）
早坂 先生！
アルマ (嬉しそうに手を叩いて) やっぱ来た。マジで！
秦 (膝をさすり) 着地の際に、ピキっといったぽい。
タミエル 無茶するからだ。まあ、年寄りの鼻水だな。
秦 (間髪入れず) 冷や水だ。早坂さん、格好悪くてごめん……。
早坂 先生。助けに来てくれるって信じて……。

と、アルプの機嫌が悪そうな咆吼を上げる。
早坂が悲鳴を上げて、逃げようと藻掻く。

アルマ あら、アルプが超ご機嫌斜めになっちゃった。折角のご馳走を横取りしようとするんだも
ん。見て、怒りのあまり、アルプが青白く輝き出しちゃったぞ。

ホタルのように明滅を繰り返す青白い光が早坂を照らす。
早坂は呆然としてその光を見つめる。

秦 アルプは怒りのあまり、光り出した訳じゃない。
アルマ じゃあ、なんなのさ！
タミエル (独りごちるように)アルプの内部で生じた青白い光って……これは？
秦 チェレンコフ放射だ。
早坂 (光を見つめたまま、呟くように)チェレンコフ放射……。
アルマ (タミエルに)ねえ、なんなの？ チェレ何とかって？
秦 <ネフィリム>反応プール内でも観測される青白い光だ。アルプの輝きが何を意味するのか。タミエル、お前なら分かるだろ。人間に天界の秘密を、<ネフィリム>の秘術を漏らしたのはお前だろ？
タミエル ……あり得ない。
秦 あり得ない？ じゃあ、お前が今目にしているものはなんだ？ アルプの体内で高濃度に濃縮されつつある<ウラヌス>が臨界状態に達し始めたんだ。
早坂 臨界って……？ 先生！
秦 このままでは<ウラヌス>の連鎖反応が始まる。もしそれが起ったら、放出された膨大な魔力で、お前らもただではすまない。
アルマ ただではすまないのはあなただけだよ。だって私は……。
秦 護符(タリスマン)の魔力……か？
アルマ (たしなめて)チャーム。タリスマンなんてダサイ呼び方しないで。タミエルあなたも私のそばにいれば大丈夫。
秦 (左手を口元に持っていく)そばにいなけりゃ、効果無しか？
アルマ 当たり前じゃない。私の見えないところじゃ魔法の使いようがない。でも、あなたはダメ。(邪悪な笑顔で)私、殺戮天使を守る気なんかないし……。
秦 そして、お前は俺だけでなく、滝野も守れない。石間もな。
アルマ 端から守る気、ないし。
秦 タミエル、お前はどうかんだ？ 人間に憧れ、人間を愛し、そして人間になろうとするお前は？

タミエルが携帯電話を取りだし、連絡を取ろうとする。
銃声。タミエルの手から携帯電話が消し飛ぶ。

秦 石間なら、免震棟のあたりにいる。ここからさほど離れていない。アルプが臨界事故を起こしたら、当然その被害はヤツにも及ぶ。

タミエルが駆け出す。(退場)

アルマ タミエル！
秦 タミエルはお前とは違う。(左手を口元に寄せ)免震棟まで駆けていく。この件を石間に

伝えるために。ヤツを救うために……。

秦が舞台奥台上に駆け上がり、早坂の手首を縛っていたロープを解く。

秦 早坂さん。行くぞ。

アルマも台上に駆け上がり、両手を広げて進路を妨害する。

アルマ 行かせない。私は早坂ちゃんがアルプに食べられるのを見たいんだもん。

秦 まだ分からないのか？ そんなことをしたら……。

アルマ だって、彼女……ラザロだもん。

秦 (言葉を失う)……。

アルマ でしょ？

早坂 先生、私がラザロって？ どういうこと？

秦 どうしてそれを……。

アルマ 触ったら分かるよ。ラザロだって……。ねえ、興味あるでしょ？ ラザロってどんな味かするの……。

アルマが微笑む。透き通るほどに純粋な、意地の悪い笑顔を浮かべて……。

一発の銃声で、照明が台上から舞台前方に振り替わる。

棚橋が走り込んできて舞台中央で倒れている。

銃を持った滝野と石間がその背後に現れる。

棚橋 (脇腹を押さえて)クソッ。

滝野 (正面遠くに視線を投げて)青木。良くやった。(棚橋に)コマネズミか、お前は？ ちょこまか逃げ回りやがって……。

石間 あらら、脇腹えぐられちゃったね。痛いでしょ？ 血がいっぱい出てるし……。

棚橋 ちっとも痛くなんか……。

滝野が棚橋の背後に回り込み髪を鷲掴みにして、顔を引き上げ、銃口を首筋に当てる。

棚橋 痛てて。

滝野 なあ、お前何しに来た。目的は？

棚橋 ……。

滝野 忍び込んできたのは、お前一人じゃねえだろ？ 樋村も来てるのか？ あの卑怯者の殺し屋が……。

石間 克爾をそんな風に……。

滝野 (石間に強くたてつく)事実だろ、オヤジ。(棚橋に)どうなんだ、来てるんだろ？

棚橋 さあな。

滝野 (正面に顔を向け)青木。こいつ以外にも侵入者はいる。周囲の警戒を怠るな。散れ！

(棚橋に) そうなんだろう？ 言え！(髪の毛を引っ張り、銃口を更に顎の下にめり込ませる)

棚橋 痛ててて。分かった。言う。だから髪の毛を引っ張るのだけは許してくれ。毛根に元気がなくなってきているんだ。ミノキシジルの効果も限界に近づいているような気がするし……。

滝野 (髪の毛を放す)

棚橋 サンキューー、ありがとう。お前もあと十年もすれば分かるよ。「髪は長い友達」って言葉の本当の重みが……。

滝野 じゃあ、言ってもらおうか。この侵入の目的は？

棚橋 分かった、分かった。言うからさ、銃口を下ろしてくれ。俺たちがここに来た理由は……(にっこり笑って) 散歩だ。

滝野 ……オヤジ。こいつやっちゃっていいですか？

石間 しかたないねえ。ねじ曲がった性格を矯正してあげなさい……。

滝野の拳銃を持った手が、横に一閃する。その手で棚橋のほおを殴ったのだ。
顎を押さえてうずくまる棚橋の髪を掴んで馬乗りになり、脇腹の銃創に銃口を押しつける。
悲鳴を上げる棚橋。

滝野 脇腹の傷は深そうだな。早く喋らないと、出血多量で歌いたくても歌えなくなるぜ。

棚橋に馬乗りのまま、滝野が静かに恫喝する。滝野の身体が重いらしく、棚橋が辛そうだ。「ギブ、ギブ……」と囁きつつ、滝野のおしりを手で力なく叩いている。
それをにんまりと見つめる石間。

滝野 立てよ！(滝野が立ち上がり、強引に棚橋を立たせる。銃口で脇腹を小突き) 死ぬ前に歌えよ！

照明が舞台奥台上に振り替わり、棚橋、滝野そして石間は退場する。

アルマ そうか、分かった。彼女はきっと……あの日、あの時に……。

早坂 あの日？ あの時？

アルマ あの〈大洪水〉の日よ。

秦 早坂さん。最後の調査航海を憶えているか。

早坂 忘れる訳なんかない。

秦 あの日。あの時。俺たちふたりは海洋調査船の船室にいた。突如、船底で大きな音がした。山ほどの大きさの巨人がぶ厚い鉄板を殴りつけたような音だった……。

ガックオーンという大きな音。
よろけた早坂を秦が胸で受け止める。

早坂 先生。なにが……。
秦 (首を横に振り) 分からない。待て、海底から何かが急速に接近してくる気配を感じる。気が触れた巨大な鯨が、ジェット機並みの速度で船に向かって突っ込んでくる——いや、違う。海底掘削中の BMS。それをつり下げているワイヤーケーブルがたわみ、鞭のようになりながら、恐ろしいほどの力を、破壊的な振動を、この船に向けて伝えてこうしているんだ。

鋼鉄の太いワイヤーが張力の限界を超え、筋の一本一本がビキン、バキンと切れていく音。海の底から迫ってくる地鳴りのような轟音。

秦 来る！ そう叫んだ刹那。ワイヤーケーブル保持していた船尾が空に向かって跳ね上がった。6000 トンを超える船体のすべてが船尾を真上にして空中に飛び上がる。
早坂 先生！

秦は早坂の手をしっかりと握り、抱き寄せる。

秦 高く跳ね上がった船体が、一瞬静止する。狭い船室の中が無重力空間となった。俺たちは抱き合ったまま中空に浮かんでいた。

ピッチューーンと、ワイヤーケーブルが完全に断絶する音。

秦 ワイヤーケーブルが負荷に耐えきれずに紙のコヨリのように断ち切れる。跳ね上げられた船体が落下を開始する。自由落下などではない。巨大な化け物に船尾をむんずとつかまれ、力任せに海面に叩き付けられたようなものだった。

海面を叩く船体。金属が折れ曲がり、ひしゃげ、そして割ける音

早坂 (気を失っている)
秦 早坂さん。大丈夫か？
早坂 (目を空けて) 先生……。
秦 「早坂さん。船が沈む」 急速に海水が流れ込んでくる。右手が何かに触れた。ライフジャケットだ。「早坂さん。これを着るんだ。怪我はないか？ 腕や足は動くか？」
早坂 大丈夫です。
秦 「良かった。とにかくここを脱出する。船首甲板へ！」 船の上下はもう定かではない。甲板への移動は、まるでフリークライミングだ。腕の筋肉がすぐに悲鳴を上げる。やがて、垂直に切り立った断崖のような甲板に出た。「早坂さん、飛び込むぞ！」
早坂 待って！ 救命いかだ！
秦 留め金を外し、彼女が全体重をかけて、ロープを引く。救命いかだを収納したポッドが転がり落ち、ふたつに割れる。海面にオレンジ色の花が開く。巨大な蓮の花のような救命

いかだ。俺たちは海面に飛び込んだ。

台上から下の舞台に飛び降りる二人。荒ぶる波の音。ゴボゴボと泡立つ海面。

早坂 他の乗組員は…… 誰も脱出できなかったの？

秦 一体何が……。

早坂 先生。ライフジャケットは？

秦 突然だったんで、君の分しか……。

早坂 私のこれを着て下さい。

秦 (早坂が、ライフジャケットを脱ぎ始めようとするのを制して) 君が着ている。

早坂 この世の中で先生と私のどちらが大切だっているのですか？ そんなの先生に決まって…
…。

秦 (首を横に振り) それは君だ。

早坂 (唇をかみしめて、秦を見つめる) 先生、左手を出して下さい。

早坂が手に持っていたロープで秦の手首を縛る。

早坂 これで離ればなれになることはありません。何があっても、絶対先生を助けますから。
絶対に放しませんから……。

早坂が秦の手を握りしめる。血が止まるほどに、きつく……。秦は早坂の顔から握りしめられた手に視線を移動する。早坂が何かに気付いたように正面に視線を向け……そして目を見開く。

スクリーンに投影されている接近する大津波——いや、海の壁！

気配に気づき、秦も視線を正面に向け、驚愕する。

海の壁はあっという間に二人の眼前まで迫り、青緑色の海の光が二人を飲み込む。

暗転。ニュース報道のアナウンサーが喋っている。

「……14時46分ごろ、宮城県牡鹿半島の東南東沖の海底を震源とする非常に大きな地震が発生しました。マグニチュードは9.0。大規模な津波の恐れがあります。沿岸域にお住まいの皆様は……」

アナウンスの間にアルマが台上をゆっくりと降りてくる。舞台の照明が変化し、客席よりの舞台前面のみの明かりになる。

アルマ 何時間、いえ何日間、気を失っていたの？ 気付くと瓦礫の中に横たわっていた。あんたは首を動かして左右を見る。四方八方瓦礫の山。ここがどこなのかも判然としない。宇宙の果ての見知らぬ惑星にでも飛ばされたかのよう……。そして、左手首に巻かれているロープに気付く。

秦 ロープ……(何かを思い出そうと眉間にしわを寄せる。そして、思い出す)。このロープは！ 早坂さん！

アルマ ロープの先は瓦礫の下に繋がっていた。瓦礫を急いでどける。

秦 早坂さん。今助けてやるから。早坂さ……。

アルマ 瓦礫の下に彼女がいた……。オレンジ色のライフジャケットを身につけた彼女が横たわっていた、眠るように瞼を閉じて……。色を失ったロウソクのような白い肌。あんたは張り付いた乱れた黒髪を整えてやる。

秦 (膝から力が抜ける) どうして、君が……。どうして……。 (天を仰ぎ叫ぶ) 何故だあ！

アルマ あんたは、その時……。決して声に出してはいけない〈神の名〉を叫んだんだね。そして、全身全霊を捧げ、助けを乞うた。禁断の秘術の禁忌を侵すために……。禁断の秘術……そう「ラザロの奇跡」を！

早坂 「ラザロの奇跡」？

アルマ ヨハネの福音・11章に記されたイエスによる死者の蘇生……。

早坂 死者の蘇生？ 待って、私は……。先生、私は……。

アルマ 死人(しびと)を蘇らせるなんて、あんた一体、何者？

照明が一瞬のうちに、舞台奥の台上へと切り替わる。
駆け込んでくるタミエル。他方から現れる壬生。

タミエル (立ち止まり) 邪魔だ、殺戮天使。そこを退け！

壬生 (首をゆっくりと横に振り) 「人間に憧れ、人間を愛し、そして人間になろうとする私たちを、どうして天は許さない……。あの時のあなたの問い掛けに、私たちは答えることが出来なかった。何故、天がそれを許さないのか……。あなた自身はそれを考えてみたことはあるの？

タミエル 知るか。

壬生 他ならぬあなた自身の事よ、はっきりと答えて欲しいわ。

タミエル いいからそこを退け！

壬生 退くことは出来ない。(手に持ったナイフをタミエルに示し) アマダス——その魔法金属で作られた刃よ。

タミエル 銃弾が効かないから、白兵戦か？ (笑って) それでも同じ事。どんな攻撃だってかわすことが出来る。それに……。

タミエルが壬生に近づいていく。

壬生 それに？

タミエル その武器を奪い取ることも簡単にできる。目にも止まらぬ早業で。

壬生の手からナイフが突如消え、代わりにタミエルの手にナイフが現れる。

壬生 なに、今の？

タミエル 魔法に決まってるでしょ。(鼻先にナイフを突きつけて) ねえ、殺戮天使はグリゴリを殺す。お前自身、それについて考えてみたことはあるのか？

壬生 グリゴリを殺すことが私たちの仕事。

タミエル 逆にグリゴリは殺戮天使を殺すことはない。その理由は？

壬生 ……。

タミエル 考えたこともないのか？ 至極当然の理由だ。そもそも天使は天使を殺したりしない。だけど……自分自身を守るためになら、そのしきたりをやぶってもいいんだろう？ 確か、人間の法律にもあったっけ。

壬生 刑法第 36 条、正当防衛……。

タミエル さすが、弁護士先生。(ナイフを首筋に当てて)お前の最後の言葉として最高だ。自ら創成したアマダスの刃で死ね。

ナイフを握った手に力が入る。壬生ののど笛は、目に見えない速度で切り裂かれることになる。

と、突如響き渡る銃声！

スクリーンにぶちまけられる血液。銃弾がタミエルの眉間に命中したのだ。

舞台奥台上で、樋村が拳銃を構えて立っている。

タミエルの手から滑り落ちたナイフが床の上で跳ね、乾いた音を立てる。

樋村 災いなるかな、人間に天界の秘密を、〈ネフィリム〉の秘術を漏らす者……。

タミエル お前は囧か……。 (力なく笑って) 相変わらず、狡いねえ。殺戮天使は……。

タミエルはそう言いながら、壬生の胸の中に倒れ込んでいく。

アルプの咆吼。それは悲鳴に近い。

と、照明が舞台奥台上から舞台前面に振り替わる。

アルマ どうしたの、アルプ！

秦 タミエルが死んだ。召喚したタミエルが死ねば、魔法は解け、アルプは元いた場所に戻る。

アルマ 馬鹿なこと言わないで、殺戮天使！ タミエルが死ぬわけない！ だって、アルプはまだここにいる！

秦 いや、やがて……。

アルマ 嘘をつくな、殺戮天使！ アルプ。帽子を取ってその神々しい姿をお見せ！

アルプの咆吼。照明が禍々しく変わる。

アルプがその醜い姿をさらしたのだ。呆然と見つめる秦と早坂。

早坂 か、怪物……。何なの……。

アルマ 素敵よ、アルプ。さあ、エサをくわえ込んで！ 早く！

アルプの咆吼。アルプの巨大な腕が一閃し、早坂の身体をその手で掴む。

秦はその腕にはね飛ばされ、派手に後転二回転だ。肩を擦りむくのは必至だ。

絵的には一歩前に踏み出した早坂を青白いシャープなサスが照らしているって感じ。

アルマ 早く、そのラザロを口の中へ入れるの！ ラザロはただの虚ろな死体。でも、溢れるほどの想いが詰まっている。その殺戮天使の溢れるような想いで満たされているの。それを味わって、すべてを吸い取るの！

アルプの咆吼。

秦 早坂さん！

早坂 先生？ 私……私、死んでたんだ。

秦 でも、今は生きてる……。

早坂 先生の想いが、溢れるようなその想いが、私を蘇生させたの？ だったら、その想いをこの怪物に吸い取られるのだけは嫌。だから、お願い。この魔法を解いて。先生がすべてを捧げ、禁忌を侵した禁断の秘術を……。魔法をかけた者ならその魔法を解くことだって……。

秦 それを解いたら君は……。

早坂 もう十分なの。私は先生の想いで満たされてるんだから……。でも、その想いの一欠片ですら、この化け物に吸い取られるのは我慢できない。だから……。

アルマ 何をしているの、アルプ！ 早く味わいなさい！

早坂 塵は塵に、灰は灰に戻らなきゃ。そうでしょ？ お願い。私を元に塵に戻して！ このままだと、この化け物の中で臨界反応が起きて、先生だって無事じゃすまない。お願い！ 先生の想いで満たされて、私は世界一幸せな塵になるから。宇宙一幸福な灰になるから！ お願い！

秦 ……。

秦が両の頬を固くつむる。

早坂を照らす明かりがどんどん強くなっていく。まるで、早坂がこのまま浮かび上がり、天にでも昇っていくかのような「神々しい照明」となる。[←頼みますよ、島田さん！]

高鳴る音響。そして、余韻を残しながら、舞台はゆっくりと暗転していく。

10. あれ？ 脇腹を撃たれたおっさんはどうなった？

明転。舞台中央に棚橋が座り込んでいる。
それをとり囲むように、滝野と石間が立っている。

棚橋 (息も絶え絶えに) 今、何時だ？
滝野 もうすぐ、正午だが……。
棚橋 そうか。じゃあ、そろそろお暇しなくちゃな。
滝野 はあ？ 脇腹から血流して、銃口向けられている男の台詞か？
棚橋 昼に担々麺を食う約束をしている。越乃屋で……。
石間 越担々麺か？ あれは夏バテに効く……。
滝野 なあ、いまわの際の台詞が「担々麺」か？
石間 泣かせるねえ……。
滝野 お前はきつとここで死ぬ。どうやってこの窮地を脱して、越乃屋で担々麺を……。
棚橋 俺には奥の手がある。
滝野 はあ？ 何ほざいてるんだ？
棚橋 石間が抱いているパピヨン。それを発見し、救出したのが俺だ。
石間 それは、それは。その節はお世話になった。(深々とお辞儀をする)パピヨンちゃんもお礼を言っている。「きんきん」。
滝野 恩を着せて、窮地を脱せるとでも？ 馬鹿か？ そんな奥の手が通用すると……。
棚橋 その際に、俺はパピヨンにケツを噛まれた。ケツ穴がもうふたつみつ出来るかと思うぐらい痛かった。
石間 それは、それは。ご迷惑をお掛けした。(深々とお辞儀をする)パピヨンちゃんも謝っている。「きんきん」。
滝野 (石間をたしなめて)オヤジ！
棚橋 俺はずっと考えていたんだ。何故、パピヨンは俺のケツを噛んだのか？
滝野 何、くだらねえこと……。
棚橋 そして、ついさっき、その答えにようやくたどり着いた。ビーフジャーキー。マタタビ・パウダーをふりかけたヤツだ。
滝野 マタタビ？
棚橋 パピヨンの大好物。ネコまっしぐらだ。
滝野 パピヨンは犬だが？
棚橋 (滝野の言葉を無視して)それをずっと、ズボンの尻ポケットに入れっぱなしだったからケツを噛まれた。
滝野 (笑って)そりゃ災難だったな。
棚橋 確かに。でもな、災難は誰にだって分け隔てなく訪れる。さっき、お前が馬乗りになって、締め上げた時、俺は尻ポケットからこっそりとそれを取り出し、お前に仕込んだ。
滝野 仕込んだ？ 何を言って……。
棚橋 マタタビ・パウダーてんこ盛りのビーフジャーキーを入れたんだよ。お前の尻のポケット

にな！
なっ!?

棚橋 パーピーヨォー————ン！

滝野 痛え！ ケツ噛まれた！ 放せ、馬鹿犬！

石間 こら、滝野！ 手前、パピヨンちゃんになんてことしやがるんだ！

滝野 オヤジ！ この馬鹿犬が！ 痛え！ 放せ！

石間 パピヨンちゃんのことを馬鹿犬なんてほざいたら、殺すぞ、ごらあ！ つうか、手荒なまねでもしやがったら、お前のクビ引っこ抜いて、イグアナのエサにするぞ！

滝野 つーか、イグアナ、ああ見えても草食ですから……って、ケツが痛ええええ！

78

タミエル これでやっと死ぬる。私が愛したあの男と同じように、腐り、骨となり、そして塵になるんだ。ねえ、アルマ……私が望んでいたのはこれなのか？

アルマが泣いている。声を殺して、泣いているのだ。

タミエル アルマ。泣いているのか？

タミエルのその問い掛けが引き金になったように、アルマが声を上げて泣きじゃくり始める。

アルマ チャームが効かないよ。全然効かないよ。やだよ。タミエルが死んじゃうなんて、絶対やだ……。

タミエル 無茶を言うな。もう手遅れだよ、アルマ……。

タミエルの背中に光とともに翼が生じた瞬間、それは腐食し、崩れ、塵になり、風に吹かれて、虚空へと消える。

タミエルはもう動くことはない。

その傍らで、アルマが大声を上げて泣いている。

暗転していく舞台。

再び明転すると、棚橋が舞台に倒れ込んでいる。

棚橋 くそ……。まんまと逃げ出せたのはいいが、もう一歩も歩けねえや……。 (腹を押さえて) かすり傷だと思えてえが、実際深いな、これ……。ダメかもなあ……。

棚橋の背後に現れる秦。

秦 棚橋。撃たれたのか？

棚橋 秦。よかった。一人で死んでいくのは寂しいと思っていたところだ。

秦 馬鹿言うな。天使がそんな傷で死ぬもんか。立て。

秦、棚橋に肩を貸し、立ち上がらせる。

棚橋 痛ててて……。

秦 我慢しろ。歩くぞ。この先で楓ちゃんが待ってる。

棚橋 どんだけ、先？

秦 2kmそこそこだ。

棚橋 歩けるかな……。

秦 当たり前だろ。

棚橋 アルプは？

秦 樋村がタミエルを仕留めた。つまり……。

棚橋 召喚した者の死とともに、アルプは……。
秦 元いた場所に戻る。もう臨界事故は起きやしない。
棚橋 拉致された学者先生は？
秦 ……。(無言で左腕に巻き付いたロープの切れ端を見つめる)
棚橋 どうした？
秦 ……アルプには、喰わせなかった。魂のひとかけらも……。

ロープの切れ端を見つめる秦。その表情を見て、棚橋は曖昧ながらも理解する。これ以上、言葉を重ねても意味はない。

棚橋 そうか……。 (と、不意に歩みを止め) なあ秦。残念だが、もう歩けねえよ。俺を置いて、一人で行け。
秦 天使が弱音吐くんじゃねえ。
棚橋 天使……。なあ、俺はほんとに天使なのか？ 〈アマダスの弾丸〉も作り出せねえ。〈天空の目〉も持ちちゃいねえ。(笑って)魔法の使えない天使なんて、いるのかよ。
秦 棚橋。お前はきっと強力な魔法の使い手だ。俺や樋村なんか及びも付かないほどの。その魔力が強力すぎて、逆に封印されているんだ。
棚橋 いい加減なことを言うんじゃねえよ。
秦 その時が来れば、お前の魔法の封印が解かれるはずだ。
棚橋 その時が？ いつだよ……。
秦 だから、この次だよ。続編で……。
棚橋 続編？
秦 (独りごちて) いや、続編では樋村が主役になりそうだから、続々編かな？ (棚橋に) だから、お前がこんなところで死ぬわけはないんだ。

言い切りで、Unbreakable/Fireflight が響き始める

棚橋 なんだかよく分からないが、ちょっとは元気になったよ。
秦 急ぐぞ、棚橋。頑張って足を前に出そう。

再び、二人が歩き出す。秦の肩を借りて、棚橋がゆっくりとだが確実に歩き始める。
舞台後方台上に明かり。
樋村、壬生、但峰と大念が立っている。

大念 (双眼鏡で正面を見て) おっちゃん発見！ 秦さんと棚橋さん。
壬生 生きてたね。
樋村 生きてるさ。
但峰 (遠くを見て) 怪我してるんじゃないですか、助けに……。

但峰が駆け出そうとするのを、壬生が制する。

壬生 助けなんか必要としていない。あいつらは自分の足で歩いてくる。
樋村 天使だからな。
但峰 〈ネフィリム〉を背にして歩いてくる二人の天使か……。
大念 天界が送り込んだ天使達はグリゴリを殲滅したら雲の上にもどれるの？
壬生 さあ、どうかしら……。たとえ、すべてのグリゴリどもを一掃できたとしても、〈ネフィリム〉が再び動き出すなら……。
但峰 〈ネフィリム〉は、人間の手に負えるものではない。
大念 それが天界の下した判断？
壬生 〈ネフィリム〉が動き出してしまったら……。天界は再び新たな決断を迫られることになる。
樋村 天は時として冷酷な判断をする。天使に対しても、そして人類に対しても、だ……。
壬生 そして、それはやってくる。
大念 ジャッジメント・デイ。審判の日。
但峰 斯くして、地上の者、すべてが裁かれる……。
大念 (前方を指差し) あっ、おっちゃん達がこっちに気付いた！ (手を振って) おーい！

大念、但峰が階段に一步踏み出し、手を振る。
秦もそれに気付いて、棚橋に指を指して伝える。
と、大念、但峰、秦、棚橋はストップモーション。音響もリバーブ(ディレイ?)を伴って消える。

壬生 ジャッジメント・デイ——審判の日までは、あと何日？
樋村 コチコチと音を立てて、時計の針は進み続ける。
壬生 ジャッジメント・デイ——審判の日まではあと何秒？
樋村 終わりへのカウントダウンタイマーは動き続けている。
壬生 ジャッジメント・デイ——それを止めることが出来るのは……。
樋村 天使達だけだ。

Unbreakable/Fireflight が大音響で響き渡る。
それもサビの頭のちょうどいい感じのところから。
大音響で流れる音響の中、すべての登場人物が舞台上に現れ……。
客席に向けて深々と礼をする。